

【4H1B101】解剖学		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	大林 泰二						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師（大学病院等勤務）15年						
授業方法	講義を中心としますが、問題演習も行う予定です。状況によっては対面ではなくオンラインとなる場合があります。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が日常業務を行うために必要な人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割の基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことが出来る。					
	関心・意欲・態度	人体の構造と機能、特に口腔・歯の構造・役割と日常歯科診療を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことが出来る。					
授業内容	医学・医療を勉強する際、最初に学ぶ学問が解剖学と生理学です。解剖学は主に人体の形・構造とその発生を学ぶ学問です。生理学は人体の働きとその仕組みと知る学問です。この授業では歯科衛生士が主に扱う口腔のみでなく、全身の構造と機能を学び、歯科衛生士が日常業務を行うために必要な人体の構造と機能を理解することを目指しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	課題提出		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	5	5
	自己評価		-	-	-	5	5
合計(点)		60	30	-	10	100	
評価の特記事項							
ICT活用	ICT(GoogleFoamなど)を活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
課題に対するフィードバック	即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社(5,060円)ISBN:978-4-263-42604-3						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、解剖学とは人体の成り立ち・構造を理解する学問である事を知る。関連科目である生理学との違い・重複を理解する。(解剖学・生理学に関する自己の理解や認識を再確認して関心を高める) P1~10 [課題] (準備) これまで学んだことのある解剖学・生理学についてまとめる(1h) (復習) 生理学と解剖学の違いについて理解する(1h) (予習) 細胞・組織・臓器の違いについて考える(1h)						
2	細胞・組織・発生について理解する(細胞の構造[細胞内小器官・遺伝子]と機能、代表的な組織[上皮・支持組織]、発生のメカニズム、受精から胎児の成長までについて理解し、組織と発生について考える) P11~44 [課題] (準備) 細胞・組織・発生についてまとめる(1~2h) (復習) 代表的な組織[上皮・支持組織]について整理する(1~2h) (予習) 骨格系について考える(1~2h)						
3	骨格系について理解する(骨の構造、機能、発生を学び、頭蓋骨・体幹骨、上下肢骨について理解を深める) P45~63 [課題] (準備) 骨格系についてまとめる(1~2h) (復習) 頭蓋骨について整理する(1~2h) (予習) 筋肉系について考える(1~2h)						
4	筋肉について考える(筋の形状と分類を学び、頭部、頸部、背部筋群を知る) P64~83 [課題] (準備) 骨格筋についてまとめる(1~2h) (復習) 頭頸部筋について整理する(1~2h) (予習) 消化管について考える(1~2h)						
5	消化と吸収について考える(口腔、食道、胃、小腸、大腸の解剖を理解する。特に口腔は、舌・唾液腺についても考える) P84~108 [課題] (準備) 消化管についてまとめる(1~2h) (復習) 口腔について整理する(1~2h) (予習) 循環について考える(1~2h)						
6	循環について考える(心臓血管の構造について学ぶ) P109~140 [課題] (準備) 循環についてまとめる(1~2h) (復習) 心臓について整理する(1~2h) (予習) 動脈・静脈系について考える(1~2h)						
7	循環について考える(動脈、静脈、リンパ系について理解する。脈拍、静脈確保と静脈注射について学ぶ) P140~155 [課題] (準備) 動脈・静脈についてまとめる(1~2h) (復習) 体循環・肺循環について整理する(1~2h) (予習) 感覚器について考える(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	感覚器の基本的性状について考える（皮膚、内臓の感覚、痛覚について理解し、視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器について学ぶ）P156～178 [課題] (準備) 感覚器についてまとめる(1～2h) (復習) 皮膚感覚について整理する(1～2h) (予習) 神経系について考える(1～2h)
9	神経系について考える（大脳など中枢神経系の構造機能を理解する。また脳神経系と主な伝導路を学ぶ）P179～195 [課題] (準備) 中枢神経についてまとめる(1～2h) (復習) 脳神経について整理する(1～2h) (予習) 末梢神経について考える(1～2h)
10	神経系について考える（末梢神経系と主な伝導路を学ぶ）P196～212 [課題] (準備) 末梢神経についてまとめる(1～2h) (復習) 自律神経について整理する(1～2h) (予習) 呼吸器系について考える(1～2h)
11	呼吸とは何かを考える（呼吸器の構成、肺の仕組みについて学ぶ）P213～233 [課題] (準備) 呼吸器についてまとめる(1～2h) (復習) 肺について整理する(1～2h) (予習) 泌尿器について考える(1～2h)
12	泌尿器について考える（腎臓・膀胱、尿路を説明できるようになる）P234～245 [課題] (準備) 泌尿器についてまとめる(1～2h) (復習) 腎臓について整理する(1～2h) (予習) 内分泌系について考える(1～2h)
13	内分泌について考える（内分泌とは何かを理解する。内分泌器官の構造と機能を学ぶ）P246～258 [課題] (準備) 内分泌組織についてまとめる(1～2h) (復習) 膵臓・甲状腺について整理する(1～2h) (予習) 生殖器系について考える(1～2h)
14	生殖及び体温について考える（男性生殖器、女性生殖器、体温の調節・変動について学ぶ）P259～278 [課題] (準備) 生殖器及び体温調節についてまとめる(1～2h) (復習) 生殖器解剖及び体熱産生・放散について整理する(1～2h) (予習) 解剖学全体について考える(1～2h)
15	まとめ（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、解剖・組織発生学の未来に向けた方策や工夫などについて考える） [課題] (準備) 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(9～10h)
時間外での学修	時間外での学修[準備・課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーはG305（G号館3階）で毎週木曜日16：20から17：50です。

【4H1B102】生理学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	南 武志・糸尾 尚浩					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	南：病院臨床検査技師・6年 糸尾：開業歯科医師・27年					
授業方法	講義を主体とするが、各単元毎の「確認小テスト」などを授業時間内に行う。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士として必要な生理学的知識を学修し理解すること。				
	関心・意欲・態度	生体の仕組みに高い関心を持ち積極的に学修に臨むこと。				
授業内容	生理学はヒトが生きるために必要な生体の機能を知る学問である。歯科衛生士は、顎・口腔・顔面領域のみならず、全身の機能の理解が不可欠であることから、前半では呼吸・血液循環・体温調節・食物の消化吸収・排泄・ホルモン分泌・生殖など生体のもつ様々な機能（一般生理）について講義する。後半においては、一般生理の基礎的知識を踏まえ、口腔の機能、すなわち咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚・嗅覚などについて講義する。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	小テスト(受講態度)	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項						
ICT活用	状況に応じてGoogle Meetを使用して遠隔授業を行う					
課題に対するフィードバック	課題を解説する。					
テキスト	『最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版(4,620円) ISBN:978-4-263-42811-5					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(南)	細胞の基本的生理機構：細胞の構造や細胞小器官の機能、細胞膜の透過性と電気現象について学ぶ [課題(復習)]細胞の基礎的生理機構について復習しまとめる(4h)					
2(南)	筋の構造と機能・運動：運動ニューロンを理解した上で、各種反射について学修する [課題(復習)]筋の構造と機能・運動について復習しまとめる(4h)					
3(南)	消化と吸収：消化器官である胃・小腸・大腸の機能を学ぶ [課題(復習)]消化と吸収について復習しまとめる(4h)					
4(南)	血液：血液を構成する細胞成分・液性成分とその機能を理解した上で、血液型について学ぶ [課題(復習)]血液について復習しまとめる(4h)					
5(南)	心臓の機能：心臓の拍動の調節、心電図について学修する(Google Meetにて) [課題(復習)]心臓の機能について復習しまとめる(4h)					
6(南)	神経系の機能：神経細胞の興奮と伝導の仕組みを考え、神経系の主な伝導路を理解する(Google Meetにて) [課題(復習)]神経系の機能について復習しまとめる(4h)					
7(南)	呼吸器の機能：呼吸の意義を考え、肺胞と組織におけるガス交換の仕組みを学ぶ(Google Meetにて) [課題(復習)]呼吸器の機能について復習しまとめる(4h)					
8(南)	感覚：外部刺激により引き起こされる感覚のメカニズムを修得する(Google Meetにて) [課題(復習)]感覚について復習しまとめる(4h)					
9(南)	排泄：排泄の意義を理解した上で、尿の生成に関わる腎臓の機能を学ぶ(Google Meetにて) [課題(復習)]排泄について復習しまとめる(4h)					
10(南)	体温：体熱産生、体温放散、体温調節のメカニズムについて学修する [課題(復習)]体温について復習しまとめる(4h)					
11(南)	内分泌、生殖：内分泌腺の種類とそのホルモンの働きを学ぶ [課題(復習)]内分泌・生殖について復習しまとめる(4h)					
12(糸尾)	歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚：歯と口腔粘膜の感覚、味覚および嗅覚の特性と役割を学ぶ [課題(復習)]歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚について復習しまとめる(4h)					
13(糸尾)	咬合と咀嚼・吸嚥：下顎運動に関わる咀嚼筋の働き、顎反射について理解する [課題(復習)]咬合と咀嚼・吸嚥について復習しまとめる(4h)					
14(糸尾)	嚥下と嘔吐：摂食・嚥下の5期を理解した上で、嚥下の概要と食塊の動きを学ぶ [課題(復習)]嚥下と嘔吐について復習しまとめる(4h)					
15(糸尾)	発声、唾液：発声機構の概要を学修する。また、唾液の性状および機能を学ぶ。12回から14回の課題確認 [課題(復習)]発声、唾液について復習しまとめる(4h)					
時間外での学修	上記の学習内容第1回から第15回について内容を確実に学修しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	生理学は医学(歯科医学)を学ぶ上で基礎となるものです。十分に学修して確かな知識をつけてください。オフィスアワー：質問等があれば、講義前後に教室で声を掛けてください。					

【4H1B103】口腔解剖学		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	大林 泰二						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師（大学病院等勤務）15年						
授業方法	講義を主としますが、問題演習も行います。状況によっては対面ではなくオンライン授業となる場合があります。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が多職種連携を含めた日常業務を行うために必要な口腔・歯の構造・役割の基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	口腔・歯の構造・役割と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。					
	関心・意欲・態度	口腔・歯の構造・役割と歯科治療における中長期的な予防管理を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。					
授業内容	高齢化社会における歯科衛生士は全身の知識に加え、専門職として口腔の「構造」について深く理解する必要があります。発生学を含めた口腔領域の解剖を3次的にイメージできるように学修します。この授業では歯科衛生士が主に扱う口腔と歯を中心に、その構造を学び、将来の歯科衛生士業務に役立つことを目指しています。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	課題提出		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	5	5
	自己評価		-	-	-	5	5
合計(点)		60	30	-	10	100	
評価の特記事項							
ICT活用	GoogleFoamなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
課題に対するフィードバック	即対応可能なものにはその場で、時間を要するものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(5,280円) ISBN:978-4-263-42605-0						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、口腔解剖学とは顔面、口腔および周囲組織の成り立ち・構造を理解する学問であることを知る（口腔解剖学で学ぶことの概要を理解する 近隣科目である口腔生理学との違い・重複部分の概要を知る 口腔解剖学・口腔生理学に関する自己の理解や認識を再確認して関心を高める）Piii~vii(序章) 【課題】 （準備）これまで学んだことのある口腔解剖学についてまとめる（1h） （復習）口腔解剖学と解剖学の違いについて理解する（1h） （予習）顔面と口腔の発生について考える（1h）						
2	顔面と口腔の発生について考える（鰓弓の形成、顔面と口唇の発生について学び、口蓋、鼻腔、舌、唾液腺の形成について理解する）P2~9 【課題】 （準備）顔面と口腔の発生についてまとめる（1~2h） （復習）鰓弓について理解する（1~2h） （予習）口腔付近の解剖について考える（1~2h）						
3	口腔付近の解剖学について考える（口腔前庭、固有口腔などについてその解剖を学び理解する）P10~18 【課題】 （準備）口腔付近の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）口腔前庭・固有口腔について理解する（1~2h） （予習）口腔を形成する骨について考える（1~2h）						
4	頭蓋・口腔を構成する骨などについてその解剖を学び理解する（特に上顎・下顎骨について理解を深める）P18~34 【課題】 （準備）頭蓋・口腔を構成する骨の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）上顎骨・下顎骨について理解する（1~2h） （予習）口腔の脈管について考える（1~2h）						
5	頭頸部の筋などについて学ぶ（開口筋、閉口筋の解剖を学び、機能を理解する）P34~42 【課題】 （準備）頭頸部の筋の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）開口筋について理解する（1~2h） （予習）顎関節について考える（1~2h）						
6	顎関節について学ぶ（顎関節を構成する組織について整理する）P42~45 【課題】 （準備）顎関節の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）顎関節の硬組織・軟組織について理解する（1~2h） （予習）口腔の脈管について考える（1~2h）						
7	口腔の脈管について学ぶ（特に動脈系について整理する）P45~50 【課題】 （準備）口腔の脈管の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）口腔の栄養血管の走行について理解する（1~2h） （予習）口腔の静脈について考える（1~2h）						
8	口腔の脈管について学ぶ（特に静脈系・リンパ系について整理する）P51~55 【課題】 （準備）口腔の静脈系の解剖についてまとめる（1~2h） （復習）口腔の動静脈の走行について理解する（1~2h） （予習）口腔の神経系について考える（1~2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	<p>口腔の神経系について学ぶ（特に脳神経について整理する）P56～64</p> <p>【課題】 (準備) 口腔の神経系の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔に分布する脳神経について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
10	<p>口腔の神経系について学ぶ（特に自律神経について整理する）P64～67</p> <p>【課題】 (準備) 口腔の自律神経系の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 口腔に分布する交感・副交感神経について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
11	<p>咽頭・喉頭・食道の構造を理解する（摂食嚥下の流れを学ぶ）P105～112</p> <p>【課題】 (準備) 咽頭・喉頭・食道の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 嚥下について理解する(1～2h) (予習) 口腔の自律神経系について考える(1～2h)</p>
12	<p>発声について声帯と口腔から考える（発声機構を理解し、声帯の解剖を学ぶ）P124～127</p> <p>【課題】 (準備) 声帯の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 嚥下と声帯について理解する(1～2h) (予習) 唾液腺について考える(1～2h)</p>
13	<p>唾液腺について考える（大唾液腺と小唾液腺を理解する）P136～139</p> <p>【課題】 (準備) 唾液腺の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 大唾液腺・小唾液腺について理解する(1～2h) (予習) 歯の形態について考える(1～2h)</p>
14	<p>歯の形態について考える(概論)（歯の形態、機能、交換、種類、数、根管について理解し、乳歯、永久歯について整理する。）P148～154</p> <p>【課題】 (準備) 歯牙の解剖についてまとめる(1～2h) (復習) 歯の種類・形態について理解する(1～2h) (予習) 口腔解剖についてまとめる(1～2h)</p>
15	<p>まとめ（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔解剖学の未来に向けた方策や工夫などについて考える）</p> <p>【課題(復習)】授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(9～11h)</p>
時間外での学修	<p>時間外での学修【課題】は授業の到達目標を達成するために必要をなる内容ですので（ ）の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーはG305（G号館3階）で毎週木曜日16：20から17：50です。</p>

【4H1B204】口腔解剖学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	海原 康孝・小原 勝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師（大学病院勤務）：27年						
授業方法	『組織発生学』の講義では、スライドや配付資料などを使用した講義を行う。『歯型彫刻実習』は2名の教員が巡回形式で指導を行い、完成した製作物を提出する。						
到達目標	知識・理解	受精から胎児の成長と発育、顔面と口腔などヒトの成り立ち、ヒトの組織の種類、細胞的構造、臓器におけるそれぞれの役割などについて、基本的な知識を修得できる。 歯の硬組織や歯髄、歯周組織の構造や各部の名称、内容を理解し、それらを歯科疾患の成り立ち、進行状況、処置方法と結びつけ、学修に取り組むことができる。					
	技能	歯のスケッチと彫刻実習で、個々の歯の形態の特徴、各部の名称を理解する。また、彫刻により器具の使い方や指先の動かし方などを修得する。					
	関心・意欲・態度	歯科疾患に結びつけ学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	口腔解剖学 では、前半に『組織発生学』を、後半は『歯型彫刻実習』を学ぶ。『組織発生学』では歯や口腔を形成する組織の微細構造や成熟する過程について学ぶ。『歯型彫刻実習』では歯の形態の特徴と解剖学的構造について学ぶ。授業に発表や討論も取り入れる。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	歯型彫刻実習，彫刻（2作品）		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		60	-	30	10	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,840円) ISBN:978-4-263-42812-2						
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 (海原)	【前半】『組織発生学』講義 歯および歯周組織の構造と機能(1) (エナメル質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]エナメル質の構造と機能を復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
2 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(2) (象牙質、歯髄複合体やセメント質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]象牙質、歯髄複合体、セメント質の構造と機能を復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
3 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(3) (歯根膜や歯槽骨の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]歯根膜、歯槽骨の構造と機能を復習する。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
4 (海原)	歯および歯周組織の構造と機能(4) (歯肉や歯周組織、口腔粘膜の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [課題(復習)]歯肉、歯周組織、口腔粘膜の構造と機能を復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
5 (海原)	細胞と組織細胞 (細胞の構造と機能、細胞の一生、組織の種類とその構成などについて学ぶ。) [課題(復習)]細胞と組織の構造および機能を復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
6 (海原)	発生について (精子・卵子の発生、受精・着床、胚葉形成、胎児の成長・発育などについて学ぶ。) [課題(復習)]ヒトの発生・成長・発育について復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
7 (海原)	顔面と口腔の発生 (鰓弓、顔面と口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成などについて学ぶ。) [課題(復習)]鰓弓および顔面、口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成について復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
8 (海原)	歯と歯周組織の発生 (先行歯、代生歯および加生歯の発生などについて学ぶ。1～7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]先行歯、代生歯、加生歯について復習し、まとめる。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)						
9 (海原・小原)	【後半】『歯型彫刻実習』実習(実習室G201) 上顎右側中切歯と下顎右側第一大臼歯の模型を観察しながらスケッチする展開図を作成し、歯の特徴の理解を深める。1～8の課題の確認を行う。 [課題(復習)]展開図で歯の形態を把握し、歯の特徴をまとめる。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10 (海原・小原)	上顎右側中切歯の模型を用い、各歯面から歯の形態・特徴を把握する。彫刻により器具の扱いを修得する。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)
11 (海原・小原)	上顎右側中切歯の形態的特徴を把握し、彫刻を行う。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の彫刻を行う。(1h)
12 (海原・小原)	彫刻を完成し、細部にわたり上顎右側中切歯の形態について学ぶ。9~11の課題について確認する。 [課題(復習)]上顎右側中切歯の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)
13 (海原・小原)	下顎右側第一大臼歯の模型を用い、各歯面から観察した歯の形態・特徴を把握する。石膏棒を彫刻することで器具の取り扱いを修得する。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)
14 (海原・小原)	下顎右側第一大臼歯の彫刻を仕上げに向け、細部に至る形態的特徴について学ぶ。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の彫刻を行う。(1h)
15 (海原・小原)	細かい作業により彫刻を完成し、下顎右側第一大臼歯の形態の細部にわたる特徴について学ぶ。12、13、14の課題について確認する。 [課題(復習)]下顎右側第一大臼歯の形態の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)
時間外での学修	講義の内容をよく復習し、理解するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	『組織発生学』は肉眼視できない部分を学ぶ難しさがあります。教科書の中の多くのイラストや写真の観察が大切です。配布資料に明記されている重要事項を完璧に覚えて下さい。オフィスアワーは毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。研究室(海原G206、小原G205:G号館2F)に来て下さい。

【4H1B105】病理学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	加藤 智樹					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	加藤智樹：歯科医師（大学病院および医療生命科学系研究所等勤務10年）					
授業方法	前半では「病理学」として、解剖学・生理学などの基礎医学科目と連携をとりながら「人体に発生する疾患」の原因・経過・症状などについて学ぶ。後半では「口腔病理学」として、「う蝕」や「歯周疾患」を中心とした顎顔面領域における疾患の病理病態について解説を行う。調べ学習も併用する。（状況により遠隔授業となることがある）					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・人体に発生する代表的な疾患について原因と経過・症状について理解する。 ・細胞の病的変化や炎症・免疫反応について理解出来る。 ・遺伝性疾患について理解出来る。 ・「う蝕」と「歯周病」の原因と経過・症状について理解出来る。 ・歯の発育異常について理解出来る。 ・口腔の発育異常、粘膜疾患、嚢胞や腫瘍について理解出来る。 ・顎骨の病変、唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変、全身疾患と口腔病変について理解出来る。 				
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・人体に発生する代表的な疾患について原因と経過・症状について説明することが出来る。 ・各病理学用語について説明することが出来る。 				
	関心・意欲・態度	病理学全般における疑問点を、自己学修によって解決出来る。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	<p>「病理学」は、人体に発生する疾患（病気）の原因・経過および結果を学ぶ科目であり、臨床歯科医学（予防と治療）の理解と実践に密接に結びつく重要な科目である。</p> <p>前半では、全身の病変を対象として「疾患の成り立ちと症状」を中心に講義をし、後半では歯科衛生士の専門領域である「口腔・顎顔面領域」の病変についてより詳しく解説する。本授業では、全身および口腔の疾患についての理解を目指し、臨床歯科医学領域の授業科目を理解するための基礎的知識をアクティブ・ラーニングやICTを活用しながら身につける授業とする。</p>					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	70	-	-	-	70
	レポート	-	15	-	15	30
	合計(点)	70	15	-	15	100
評価の特記事項	筆記試験は期末試験（定期試験）にあたり、70点分です。レポートは複数回行い、それらの合計点をそれぞれ30点分に換算します。					
ICT活用	オンラインによる知識チェックを実施					
課題に対するフィードバック	レポート課題・筆記試験実施後に、重要ポイントの解説・確認を行う					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』仙波伊知郎 他 医歯薬出版(4,180円) ISBN:978-4-263-42813-9					
参考書・教材	二階宏昌/他編『歯学生のための病理学 第2版 一般病理編』医歯薬出版 二階宏昌/他編『歯学生のための病理学 第2版 口腔病理編』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<ul style="list-style-type: none"> ○病理学オリエンテーション/「がん」とは ・解剖学・生理学・病理学・臨床医学歯科学との関係について ・腫瘍概論/良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）との違い 病理学で取り上げる知識について理解する。「がん」の種類や振る舞いなどについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「がん」とは / 病因論 ・悪性腫瘍（がん）の発生メカニズム ・腫瘍マーカー/末期がん ・外因と内因/環境要因（ストレス）と遺伝要因 「がん」の発生メカニズムを理解し、人体に発生する「疾患」の原因や発生機序について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					
3	<ul style="list-style-type: none"> ○細胞・組織に起こる変化 / 老化 ・変性、壊死とアポトーシス、萎縮（退行性病変） ・テロメアと老化/老化現象 各ライフステージにおける細胞の変化について理解する。壊死とアポトーシスについて理解する。老化現象について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					
4	<ul style="list-style-type: none"> ○創傷治癒/炎症 ・創傷の種類と治癒過程/肉芽組織と瘢痕 ・炎症の五徴候/急性炎症/慢性炎症 傷の種類を知り、細胞による傷の治癒過程を理解する。創傷や感染にともなう炎症について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					
5	<ul style="list-style-type: none"> ○細胞・組織におこる変化 / 循環障害 ・過形成と肥大 ・虚血、うっ血、充血、出血、浮腫、高血圧、心不全、ショックなど 過形成と肥大の違いを理解する。局所レベルおよび全身レベルの循環障害を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					
6	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症と生体防御（免疫） ・感染成立とは/病原性微生物（細菌、ウイルスなど） ・免疫の種類と白血球/体液性免疫/細胞性免疫 ヒトに感染する病原性微生物の存在を知り、感染成立について理解する。感染などに対するヒトの生体防御（免疫）システムについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h) 					

内容	
実施回	授業内容・目標
7	○代表的な病態および疾患紹介 ・高血圧、糖尿病、甲状腺疾患、脂質異常症など ・脳卒中、認知症など 人体に発生する代表的な疾患と病態について解説する。各疾患について原因と症状について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
8	○先天異常 ・遺伝要因と環境要因 ・遺伝子異常と染色体異常/構造異常(奇形) ヒトのDNAにまつわる疾患について理解する。遺伝子異常と染色体異常などの違いについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
9	○口腔病理学 ・ヒトの歯の発生と萌出の異常 ・ヒトの顎骨の発育と異常 ・咬合の不正 ・口腔組織の加齢変化 前半で学んだ病理学的知識を口腔・顎顔面領域に応用し理解する。ヒトの歯と顎骨に発生する異常を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
10	○口腔病理学 ・歯の損傷(機械的損傷と化学的損傷) ・「う蝕」の種類と発生メカニズム 歯質にダメージをおこす原因について理解する。「う蝕」の病因・誘因について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
11	○口腔病理学 ・象牙質-歯髄複合体と歯髄炎 ・歯髄壊疽/根尖性歯周炎と顎骨の炎症 う蝕の進行にともない発生する歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
12	○口腔病理学 ・辺縁性歯周炎(歯肉炎、歯周炎など)の発生メカニズム ・全身疾患と歯周炎/口腔粘膜疾患(アフタ、扁平苔癬など) 歯肉炎と歯周炎の違いと発生メカニズムを理解する。歯周炎と全身疾患との関係や口腔粘膜に発生する病変を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
13	○口腔病理学 ・歯原性嚢胞、歯原性腫瘍、非歯原性嚢胞、非歯原性腫瘍など ・唾液腺疾患(唾石症、粘液嚢胞など) ・口唇口蓋裂 口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞や腫瘍、先天異常などについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた医歯学・病理病態学の関連用語を復習する。(4h)
14	○まとめと振り返り ・重要事項の確認 / 問題演習 定期試験に向けて問題演習を通して重要事項を確認する。 [課題(復習)]医歯学・病理病態学の関連用語を整理し説明出来るようにする。(4h)
15	○まとめと振り返り ・重要事項の確認 / 問題演習 定期試験に向けて問題演習を通して重要事項を確認する。 [課題(復習)]医歯学・病理病態学の関連用語を整理し説明出来るようにする。(4h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点・疑問点は、問題点を整理して加藤まで連絡し尋ねて下さい(連絡方法などは講義内で指示します) 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	病理学は臨床に直接的に関わりのある科目のため、患者様に直接医療行為を行う歯科衛生士にとって大変重要な科目です。各自、予習・復習をして授業に臨んで下さい。加藤のオフィス(研究室)は「G204」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。

【4H1B106】微生物学		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	小原 勝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	小原勝；歯科医師（大学病院勤務）・15年						
授業方法	主に講義中心の授業になりますが、より理解しやすいように演習も取り入れた形式で行います。毎回、授業内容に関する小テストを行います。問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて講義を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には口頭もしくはポータルサイトなどで対応します。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が多職種連携を含めた日常業務を行うために必要な微生物の基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	感染と歯科衛生士が日常業務を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことが出来る。					
	関心・意欲・態度	口腔感染症と歯科治療における中長期的な予防管理を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことが出来る。小グループ討論で考えた事などを積極的に発表する。グループをまとめ、司会、書記、発表できる。					
授業内容	う蝕と歯周病など口腔疾患の多くは微生物によって引き起こされる感染症であり、その発症や進行には生体の防御機構が深く関与しています。また、医療現場に従事する歯科衛生士にとって標準予防策の知識は必要不可欠なものです。授業や自己学修を通して微生物学に対する理解を深め、今後の臨床に繋げることを目標とします。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	課題提出		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	-	5	5
	自己評価		-	-	-	5	5
合計(点)		60	30	-	10	100	
評価の特記事項	ICT活用						
ICT活用	ICT(ポータルサイトなど)を活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
課題に対するフィードバック	課題・小テストのフィードバックは即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版(3,300円) ISBN:978-4-263-42814-6						
参考書・教材	参考書・教材 参考資料を適宜配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	疾病と微生物(感染と感染症)、微生物の分類について学ぶ。p1~15 [予習] 微生物(ウイルス、細菌、真菌、原虫)についてまとめる(1.5h) [復習] 今まで聞いたことのある微生物感染症を列挙する(1.5h)						
2	細菌の性状と病原性について学ぶ。p16~27 [復習] 細菌の形態を理解する(1~2h) [予習] 主なグラム陽性菌、陰性菌について考える(1~2h)						
3	主な病原性細菌(グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性球菌・グラム陰性桿菌)について学ぶ。p28~42 [予習] 主なグラム陽性、陰性菌の特徴・病原性についてまとめる(1~2h) [復習] 細胞壁、外膜の有無について理解する(1~2h)						
4	マイコプラズマ・(スピロヘータ)・リケッチア・クラミジアについて学ぶ。p43~48 [復習] 偏性寄生性について理解する(1~2h) [予習] ウイルスについて考える(1~2h)						
5	ウイルスの性状について学ぶ。p48~69 [課題] ウイルスの特徴についてまとめる(1~2h) [復習] ウイルス感染症について理解する(1~2h)						
6	ウイルス感染症について学ぶ。1~5回の課題確認 p1~69 [復習] 細菌、ウイルス感染症について理解する(1~2h) [予習] 真菌、原虫について考える(1~2h)						
7	その他の微生物(真菌・原虫)について学ぶ。p70~73 [復習] 真菌・原虫感染症について理解する(1~2h) [予習] 免疫について考える(1~2h)						
8	宿主防御機構について学ぶ。p74~91 [課題] 免疫の特徴についてまとめる(1~2h) [予習] 液性免疫、細胞性免疫について考える(1~2h)						
9	液性免疫・細胞性免疫について学ぶ。p91~109 [復習] アレルギーについて理解する(1~2h) [予習] 口腔細菌について考える(1~2h)						
10	口腔微生物学(口腔細菌叢とデンタルプラーク形成機序)について学ぶ。p110~121 [課題] 口腔細菌叢の特徴についてまとめる(1~2h) [復習] デンタルプラークについて理解する(1~2h)						
11	口腔感染症1(う蝕と歯内感染症)について学ぶ。p123~130 [復習] 歯内感染症について理解する(1~2h) [予習] 歯周病について考える(1~2h)						
12	口腔感染症2(歯周病とその他の口腔感染症)について学ぶ。p130~143 [課題] 歯周病の特徴についてまとめる(1~2h) [復習] その他の口腔感染症について理解する(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	微生物感染の化学療法について学ぶ。 p144~153 [復習] 主な薬剤名について理解する(1~2h) [予習] 院内感染について考える(1~2h)
14	院内感染対策と滅菌・消毒について学ぶ。11~14回の課題確認 p155~166 [復習] 主な滅菌・消毒について理解する(1~2h) [予習] 細菌培養、観察について考える(1~2h)
15	細菌培養、顕微鏡観察について学ぶ。まとめと発表(これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔組織学の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する)。 p167~177 [準備・課題] 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(1~18h)
時間外での学修	時間外での学修[準備・課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】
受講学生へのメッセージ	近な環境から世界的視野まで口腔組織学について考え、これを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーはG205 (G号館2階) で毎週木曜日16:20から17:50です。質問などあれば来てください。

【4H1B107】薬理学		歯科衛生学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	坂井 隆之						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大学病院歯科医師10年、歯科大学薬理学講師5年、開業歯科医師13年など						
授業方法	教科書の内容を中心に最新の内容を加えながら講義を行う。 講義の一環として映像素材の視聴を行う。						
到達目標	知識・理解	総論として、薬物の作用機序の分類、体内での振る舞い、有害事象、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等についての知識をえる。さらに各論では、臨床に活用されている薬物について疾病に対する作用機序、分類、副作用等について学ぶ。					
	関心・意欲・態度	医療人として、自己管理ができ、職業的使命感を持ち自らが関心と意欲を持って地域との連携や社会貢献を推進していける。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	薬物は疾病の原因を取り除いたり、症状を和らげることを目的に使用される。一方で、不適切な使用により副作用や中等等の有害事象を引き起こすことがある。医療スタッフである歯科衛生士には、薬物の作用およびそのメカニズム、体内での薬物の振る舞い、副作用など有害事象を理解したうえで法的規制を含む薬物の適正な取り扱いが求められる。授業では、まず総論として、薬物の作用機序の分類、体内での振る舞い、有害事象、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等について学修する。さらに各論では、臨床に活用されている薬物について疾病に対する作用機序、分類、副作用等について学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		90	-	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 薬理学 第2版』医歯薬出版(3,520円) ISBN:978-4-263-42860-3						
参考書・教材	授業ごとに必要な資料を配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	総論1 薬物の定義と分類：療法による薬物の分類、薬理作用の様式・分類、薬物の用量と作用、薬理作用のメカニズムを理解する。 [課題(準備)]薬物の作用様式、作用メカニズム、用量と作用の関係についてまとめる。(4h)						
2	総論2 薬物の全体の通過様式、薬物動態および投与方法との関係について学ぶ。 [課題(復習)]薬物の吸収、代謝、排泄についてまとめる。(4h)						
3	総論3 薬効に影響する因子・生体の感受性、薬物の反復使用や併用効果、薬物の副作用、有害作用について学ぶ。 [課題(復習)]薬効に影響する因子、併用効果、副作用についてまとめる。(4h)						
4	総論4 歯科領域における薬物の副作用について学ぶ。服薬指導について学ぶ。 [課題(復習)]口腔領域に発現する副作用についてについてまとめる。(4h)						
5	総論5 薬物と医薬品に関する法律、法律による薬物の分類を理解し、薬物の保存方法を考える。薬物の取り扱いや医薬品としての剤形について学ぶ。 [課題(復習)]医薬品の剤形、医薬品に関する法律、麻薬取り締まり法などについてまとめる。(4h)						
6	各論1 中枢神経系と薬：中枢神経系に作用する薬物として全身麻酔薬、向精神薬、麻薬性鎮痛薬、中枢神経興奮薬について学ぶ。 [課題(復習)]全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬についてまとめる。(4h)						
7	各論2 末梢神経系と薬：末梢神経系の構造と機能について復習し、自律神経作用薬/拮抗薬について学ぶ。 [課題(復習)]自律神経の構造と機能、自律神経作用薬/拮抗薬の作用についてまとめる。(4h)						
8	各論3 局所麻酔薬：感覚神経系の構造と機能について復習し、局所麻酔薬について学ぶ。 1~7回の課題確認 [課題(復習)]感覚神経の構造と機能、局所麻酔薬の作用についてまとめる。(4h)						
9	各論4 循環・呼吸器系と薬：循環系に作用する薬物と呼吸器系に作用する薬物について学ぶ。 [課題(復習)]降圧薬、狭心症治療薬についてまとめる。(4h)						
10	各論5 血液と薬：血液凝固のメカニズムを復習し、止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について学ぶ。 [課題(復習)]血液凝固のメカニズムと抗血栓薬、止血薬の作用点についてまとめる。(4h)						
11	各論6 炎症と薬：炎症について復習し、抗炎症薬の分類・作用点・副作用について学ぶ。 [課題(復習)]抗炎症薬、鎮痛薬、解熱鎮痛薬についてまとめる。(4h)						
12	各論7 感染症と薬：感染について復習し、抗感染症薬の作用機序について学び、分類・代表的薬物・副作用を理解する。 [課題(復習)]感染症に関わる代表的微生物についてまとめる。抗感染症薬の作用機序、分類、代表的薬物、副作用についてまとめる。(4h)						
13	各論8 消毒薬：消毒薬の分類と作用機序について学ぶ。 [課題(復習)]MRSA、芽胞、HBV、HIVに効果のある消毒薬についてまとめる。(4h)						
14	各論9 悪性腫瘍と薬：悪性腫瘍の生物学的特徴について復習し、抗悪性腫瘍薬の作用機序・分類・副作用について知る。 [課題(復習)]抗悪性腫瘍薬の副作用についてまとめる。(4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	各論10 1) ビタミン・ホルモンと薬：主なビタミンの作用と欠乏症、ホルモンの作用について学ぶ。 2) 免疫と薬：免疫系に作用する薬物の作用機序・分類・副作用について知る。 3) 8～14回の課題確認 [課題(復習)] ビタミン、ホルモンの作用と欠乏症についてまとめる。 免疫の仕組み、アレルギーについてまとめる。(4h)
時間外での学修	各回の授業内容について調べまとめておく。身の回りにある薬物、製剤について作用機序、副作用、相互作用などを調べる。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	学修効果を高めるために、解剖学、生理学、微生物学、病理学で修得した基本的知識を整理しておくことが必要である。また身の回りにある薬物について興味を持ち作用機序、副作用、相互作用等を調べる姿勢が望まれる。オフィスアワーは、教室にて授業終了後です。

【4H1B108】栄養生化学		歯科衛生学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	加藤 智樹					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業方法	講義と調べ学習（レポート）および演習による授業展開とし、理解を深めていく。					
到達目標	知識・理解	1. 歯及び口腔組織の構成成分、機能について理解する。 2. 骨、歯の石灰化などについて理解する。 3. 唾液の生化学的特性を理解する。 4. 生体の生命活動を分子レベルにて理解する。 5. 日本人の食事摂取基準を説明できる。 6. 五大栄養素各々の栄養的意味を理解する。 7. 食生活と健康について理解する。				
	関心・意欲・態度	主体的に復習等を行い、毎回の授業で自己の到達度を確認するため自己評価を行う。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	「栄養生化学」とよばれる領域が栄養学において主要な位置を占める傾向にある。この科目は、食生活指導をするうえで必要不可欠であり、基礎知識を十分に理解することが重要である。また、栄養生化学の理解のためには基礎となる「生化学」の知識が必要であり、口腔生化学の解説も行う。将来、歯科保健指導が実践できるように基礎的な用語を確実に修得することがねらいである。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	-	-	-	60
	レポート	30	-	-	10	40
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	筆記試験は「定期試験」として実施し、50点分となります。レポートは複数回行い、最終的に50点に換算します。					
ICT活用	オンラインにての知識確認を実施する。					
課題に対するフィードバック	筆記試験・小テスト・レポートの実施後に、重要知識の確認と整理を行う。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 ISBN:978-4-263-42819-1 『八訂食品成分表2022』香川明夫監修 女子栄養大学出版部 ISBN:978-4-7895-1022-6					
参考書・教材	講義での追加資料としてプリントを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	生命活動の概要 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する。 [課題(準備)]細胞の構造や細胞小器官の働きをまとめる。(4h)					
2	栄養の基礎知識 栄養素の消化吸収について学ぶ。 [課題(復習)]消化作用の種類や仕組み、栄養素の役割をまとめる。(4h)					
3	栄養の基礎知識 基礎代謝と日本人の食事摂取基準について学び、消費エネルギー量を求める演習を行う。糖質(炭水化物)の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)]推定エネルギー必要量と脂肪エネルギー比率、糖質の種類についてまとめる。(4h)					
4	栄養の基礎知識 タンパク質・脂質の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)]タンパク質・脂質の種類についてまとめる。(4h)					
5	栄養の基礎知識 ビタミン・ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味について学ぶ。 [課題(復習)]ビタミン・ミネラルの種類についてまとめる。(4h)					
6	食生活と健康 食品の安全性(食品添加物・保健機能食品)について学ぶ。 [課題(復習・他)]食品添加物の種類と保健機能食品の根拠法について調べる。(4h)					
7	食生活と健康 望ましい食生活(国民健康・栄養調査・食育基本法)について学ぶ。 [課題(復習・他)]国民健康・栄養調査・食育基本法について調べる。(4h)					
8	歯・口の生化学(1) 歯と歯周組織を生化学の観点から説明する。 [課題(準備)]歯の無機成分と有機成分についてまとめる。(4h)					
9	歯・口の生化学(2) 歯牙・硬組織を生化学の観点から説明する。(石灰化、再石灰化、骨の生成、吸収) [課題(復習)]Ca調節ホルモンについて整理する(4h)					
10	歯・口の生化学(3) 唾液の組成と作用を知り口腔の外部環境を形成している唾液の重要性について説明する。 [課題(予習)]デンタルプラークについて予習する(4h)					
11	歯と口の生化学(4) う蝕・歯周病に対する生体防御機構を自然免疫系と獲得免疫系から講義する。 [課題(準備)]プラークによる歯周疾患発症機構についてまとめる。(4h)					
12	エネルギー 細胞内で起こる代謝について理解する。 [課題(復習)]糖質・脂質・タンパク質によるエネルギー産生について整理する(4h)					
13	まとめと演習 重要事項を整理・確認する。 [課題(復習・他)]学修到達度を確認し自己学修を振り返り、知識不足を復習する。(4h)					
14	まとめと演習 重要事項を整理・確認する。 [課題(復習・他)]学修到達度を確認し自己学修を振り返り、知識不足を復習する。(4h)					
15	まとめと演習 重要事項を整理・確認する。 [課題(復習・他)]学修到達度を確認し自己学修を振り返り、知識不足を復習する。(4h)					
時間外での学修	生化学・口腔生化学・栄養学について、予習・復習を授業時間外にしっかり行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	講義中心の科目ですが、教科書や配布プリント・インターネット・参考文献などで図をよく見てイメージするようにして下さい。レポートや演習も積極的な態度で臨みましょう。 担当教員のオフィス(研究室)は「G204」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。					

【4H1B210】口腔衛生学		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	塚本 敬子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	口腔保健関連11年						
授業方法	配布資料とスライドを中心に行います。併せて臨床写真、データなども利用します。						
到達目標	知識・理解	歯や口腔の基礎的な知識を理解したうえで、適切な予防手段を身につける					
	関心・意欲・態度	歯や口腔の予防について関心を持ち積極的に考えようとしながら学修に取り組むことができる					
授業内容	口腔衛生学とは歯や口腔の「健康」の保持増進をねらいとした学問です。そのための歯や口腔の基礎的な知識、口腔疾患の発生・要因を重点にすすめていき、口腔の健康状態が保てるような予防方法を修得できることを目的とします。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		30	-	-	-	30
	筆記試験		65	-	-	5	70
	合計(点)		95	-	-	5	100
評価の特記事項	授業内でのテストや定期テストで評価します。 また、受講態度も総合的に評価します。 講義実施時間の1/3以上欠席した場合、単位を与えません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	授業内で解答・解説を行います						
テキスト	『『最新歯科衛生学教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』』 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-42862-7 『『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』』 中垣晴男、加藤一夫、石飛國子、高阪利美他 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-42241-0						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	口腔衛生学概論 [課題(復習)] 口腔内の特性を知る (1.5h)						
2	- 1章 総論 [課題(復習)] 健康と疾病予防の概念についてまとめる (1.5h)						
3	- 1章 総論 歯・口腔の健康 [課題(復習)] 歯・口腔の構造についてまとめる (1.5h)						
4	- 1章 総論 口腔内の機能 [課題(復習)] 歯・口腔の機能についてまとめる (1.5h)						
5	- 1章 総論 歯の付着物 [課題(復習)] 確認テストの対策、歯の付着物についてまとめる (2~6h)						
6	- 4章 う蝕の予防 第2~5回までの確認テストを行う [課題(復習)] う蝕の発生メカニズムについてまとめる (1.5h)						
7	- 4章 う蝕の予防 [課題(復習)] う蝕の発生要因とその予防法についてまとめる (1.5h)						
8	- 4章 う蝕の予防 [課題(復習)] う蝕活動性についてまとめる (1.5h)						
9	- 4章 う蝕の予防 [課題(復習)] う蝕予防法の適用についてまとめる (1.5h)						
10	- 2章 口腔清掃 [課題(復習)] 口腔清掃法についてまとめる (1.5h)						
11	- 2章 口腔清掃 [課題(復習)] 歯磨剤と洗口剤の成分についてまとめる (2h)						
12	- 6章 歯周疾患の予防 [課題(復習)] 歯周組織や歯周疾患の発生機序についてまとめる (1.5h)						
13	- 6章 歯周疾患の予防 [課題(復習)] 歯周疾患の予防手段についてまとめる (1.5h)						
14	- 3章 歯科疾患の疫学 [課題(復習)] 歯科疾患の現状を知る (1.5h)						
15	まとめ [課題(復習)] 前期に学修した内容を復習 (2~6h)						
時間外での学修	毎回の授業時間外課題を取り組んでください。 薬局に行った際、どんな口腔ケア用品があるか見てみましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間]						
受講学生へのメッセージ	授業内容が多岐にわたり、捉えどころが難しいと感じると思いますが、積極的に授業に出席してください。オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後(12:10~12:20)に教室で行います。						

【4H1B211】口腔衛生学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	塚本 敬子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	口腔保健関連11年					
授業方法	配布資料とスライドを中心に行います。併せて臨床写真、データなども利用します。					
到達目標	知識・理解	歯や口腔の基礎的な知識を理解したうえで、適切な予防手段を身につける				
	関心・意欲・態度	歯や口腔の予防について関心を持ち積極的に考えようとしながら学修に取り組むことができる				
授業内容	授業回数の半分以上を歯科衛生士で重要なう蝕予防法のフッ化物について、後半は、ライフステージごとの公衆歯科衛生施策について学んでいきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	95	-	-	-	95
	受講態度	-	-	-	5	5
	合計(点)	95	-	-	5	100
評価の特記事項	授業内でのテストや定期テストで評価します。 また、受講態度も総合的に評価します。 講義実施時間の1/3以上欠席した場合、単位を与えません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業内で解答、解説を行います					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』 中垣晴男、加藤一夫、石飛國子、高阪利美他 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-42241-0					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	前期授業の復習 [課題(復習)] 前期で学修した内容をまとめる (2~4h)					
2	- 5章 フッ化物の一般性状 [課題(復習)] フッ化物についてまとめる (1.5h)					
3	- 5章 フッ化物の応用 [課題(復習)] フッ化物の全身応用法についてまとめる (1.5h)					
4	- 5章 フッ化物の応用 [課題(復習)] フッ化物の局所応用法についてまとめる					
5	- 5章 フッ化物の急性毒性 [課題(復習)] 急性毒性の特徴についてまとめる (1.5h)					
6	- 5章 フッ化物の安全量 [課題(復習)] 安全量を計算することができる (2h)					
7	- 5章 フッ化物の慢性毒性 [課題(復習)] 慢性毒性の特徴についてまとめる (1.5h)					
8	- 5章 フッ化物の作用機序 [課題(復習)] フッ化物のう蝕予防機序についてまとめる (1.5h)					
9	小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀について [課題(復習)] 小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀の特徴についてまとめる (1.5h)					
10	- 1章 地域歯科保健 [課題(復習)] 組織、関連法規をまとめる (1.5h)					
11	- 1章 地域歯科保健 [課題(復習)] 健康日本21についてまとめる (1.5h)					
12	- 1章 母子歯科保健 [課題(復習)] 組織、関連法規をまとめる (1.5h)					
13	- 1章 母子歯科保健 [課題(復習)] 1歳児6ヶ月、3歳児歯科健康診断についてまとめる (1.5h)					
14	- 1章 学校歯科保健 [課題(復習)] 組織、関連法規をまとめる (1.5h)					
15	- 1章 学校歯科保健 後期授業のまとめ [課題(復習)] 学校歯科健康診断、後期の学修した内容をまとめる (2~6h)					
時間外での学修	毎回の授業時間外課題を取り組んでください。 関連した情報を積極的に調べましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間]					
受講学生へのメッセージ	授業内容が多岐にわたり、捉えどころが難しいと感じると思いますが、積極的に授業に出席してください オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後(12:10~12:20)に教室で行います。					

【4H2S101】 歯科衛生士概論		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	水嶋 広美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	授業は、テキストや資料を用いて講義を中心とする。必要な項目においてのまとめとして課題レポートを実施する。						
到達目標	知識・理解	1. 歯科衛生の歴史(変遷)を理解する。 2. 歯科衛生を担う職種として歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。 3. 歯科衛生業務を展開する理論「歯科衛生科過程」の要素について概説し、各場面で必要になる知識・技術を理解する。 4. 医療人としての職業倫理を説明する。 5. 医療安全における歯科衛生士の責務を説明する。 6. 期待される歯科衛生士像を理解する。					
	関心・意欲・態度	1. 将来の歯科衛生士を目指して、授業に積極的に参加し、自ら関心を持って意欲的に学修に取り組む。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科医療に対する社会のニーズが高まり、口腔疾患の予防だけでなく、食べる支援者として歯科衛生士の活躍する場や業務内容の拡大にはめざましいものがあります。これから歯科衛生士を目指すため「歯科衛生」とは何か、歯科衛生士の役割および使命を理解し、歴史、医療人として心構えなどについて学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	-	-	-	70
	レポート内容		10	-	-	-	10
	レポート提出状況		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		80	-	-	20	100	
評価の特記事項	筆記試験、受講態度、課題の内容、提出状況などから総合的に評価します。課題は期限までに提出したもののみ、筆記試験時に持ち込むことができます。						
ICT活用	授業の意見交流のためにGoogleフォームを適宜使用します。質問に対しはメールでも受け付けます。						
課題に対するフィードバック	毎回の課題は、次回の授業のなかで、全体でコメントを適宜伝えます。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論』医歯薬出版株式会社(2,970円)ISBN:978-4-263-42810-8 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(9,020円)ISBN:978-4-263-42826-9 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』医歯薬出版株式会社(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版株式会社(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5						
参考書・教材	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版』医歯薬出版 その他必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科衛生とは 歯科衛生士が学ぶ「歯科衛生学」とは何か、健康とのかかわりについてを学ぶ。また、歯科衛生士の養成状況、就業状況を知る。 [課題(復習)]健康について調査する(3h~5h)						
2	歯科保健指導とは 口腔の健康について自分の口腔の健康状態を理解する。 「今後の効果的なブラークコントロールのための」基礎知識と効果的な予防製品の使い方を学ぶ [課題(復習)]自分の口腔状態の観察レポートをまとめる(3h~5h)						
3	歯科衛生士の歴史(変遷) 日本の歯科衛生士の歴史を学び、活動の場の変遷を知る。 [課題(復習)]健康について引き続き調査しまとめる(3h~5h)						
4	法律と歯科衛生士業務(1回~4回の課題の確認) 歯科衛生業務の専門性や歯科衛生士法などについて学ぶ。 [課題(復習)]歯科衛生士法についてまとめる(3h~5h)						
5	歯科衛生活動のための理論 健康の概念、予防の概念について健康増進に関連する戦略の概要を学ぶ。 [課題(復習)]必要な用語を理解する(3h~5h)						
6	歯科衛生活動のための理論 歯科衛生の考え方の理解 [課題(復習)]学習内容を復習し、歯科衛生も考え方についてまとめる(3h~5h)						
7	歯科衛生士過程 歯科衛生過程を活用する意義を理解する [課題(復習)]予防概念を理化学し、歯科衛生の考え方を復習し、まとめる(3h~5h)						
8	歯科衛生士過程 歯科衛生過程の内容を学ぶ。 [課題(復習)]歯科衛生士の社会活動内容を復習する(3h~5h)						
9	歯科衛生士の活動の場の理解 歯科衛生士の社会活動の領域と組織活動の内容を学ぶ。 [課題(復習)]歯科衛生過程の要素をまとめる(3h~5h)						
10	歯科衛生士の活動の場の理解 (5回~10回の課題の確認) 歯科衛生士の活動の領域と就業状況、保険・医療・福祉のかかわりについて学ぶ。 [課題(復習)]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)						
11	安全管理 安全管理の必要性について、法的責任について学ぶ。 [課題(復習)]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	安全管理 リスクマネジメント、感染予防対策について学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)
13	歯科衛生士と医療倫理 倫理の必要性、患者の権利、専門職の倫理を学ぶ。 [課題(復習)]学習内容で出てくる用語についてまとめる(3h~5h)
14	歯科衛生士と医療倫理 倫理の必要性、患者の権利、専門職の倫理を学ぶ。 [課題(復習)]学習内容で出てくる用語についてまとめる(3h~5h)
15	歯科衛生学まとめ 歯科衛生士の現状と社会におけるニーズと今後について学ぶ。 [課題(復習)]自分が目指す歯科衛生士について考える(3h~5h)
時間外での学修	毎回の学習やレポート作成に必要な情報を得るため、複数のテキストや図書館を積極的に利用して下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間】
受講学生へのメッセージ	歯科衛生士を目指すものとして、知識だけではなく態度が大切です。欠席せず、積極的に学ぶ姿勢を身につけてください。 オフィスアワーは研究室（G306：G号館3F）で毎週木曜日の16：20から17：00です。

【4H2S102】歯科臨床概論		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	歯科医師(大学病院勤務)・27年					
授業方法	『歯科臨床概論』では講義を主体とする。適宜配付資料や実物も使用する。					
到達目標	知識・理解	歯科疾患における成り立ちと症状、治療内容、処置の概要についての基本的な知識を理解できる。 医の倫理をわきまえた上で診療や診療の補助にあたる必要性が理解できる。				
	関心・意欲・態度	高い関心を持ち、疑問点を積極的に学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	臨床科目を学ぶに当たり、歯科医療を行う側に立つ者として歯科医療全般についての概要を知るとともに、歯科衛生士としての役割を自覚することを目標とする。授業に発表や討論も取り入れる。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	ICT活用					
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。					
テキスト	『歯科衛生士のための歯科臨床概論』医歯薬出版(2,640円) ISBN:978-4-263-42217-5					
参考書・教材	適宜紹介する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科診療と歯科診療所 [課題(復習)]歯科診療と診療所がどのようなものかを知り、医療従事者としての心がまえについて理解を深める。配布資料をよく読んでレポートを作成する。(4h)					
2	ライフステージと歯科診療 歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (1) 診査・検査・前処置 [課題(復習)]歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
3	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (2) 小児歯科・歯科矯正 (1, 2の課題の確認も行う) [課題(復習)]歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
4	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (3) 口腔外科 [課題(復習)]歯科診療のながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
5	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (4) 歯科保存 [課題(復習)]歯科保存診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
6	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (5) 歯周治療 [課題(復習)]歯周治療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
7	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (6) 歯科補綴 [課題(復習)]歯科補綴診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)					
8	歯科診療で行うこと - 主な診療の流れ - (7) 障害者歯科・高齢者歯科 (3~7の課題の確認も行う) [課題(復習)]障害者歯科および高齢者歯科の診療内容と流れを復習し、まとめる。(4h)					
時間外での学修	講義内容をよく復習するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問するようにして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】					
受講学生へのメッセージ	歯科医学への入門となるような講義です。この授業を通じて歯科医学の概略をつかむことで、専門科目の勉強が取り組みやすくなるでしょう。オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。					

【4H2S206】小児歯科学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	海原 康孝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師（大学病院勤務）：27年						
授業方法	講義と小グループでの討議形式を含めた授業展開を進めていく。小児歯科領域の重要項目を確実に覚えること、思考力を育成することを重視した授業方法をとる。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の心身の発育と口腔の成長変化について説明ができる。 ・小児の歯科疾患の病因と予防法について説明ができる。 ・小児（不協力児および障害児を含む）への対応方法が説明できる。 ・小児歯科診療の流れと歯科衛生士としての役割が説明できる。 ・小児への継続した口腔健康管理の目的と方法を説明できる。 					
	関心・意欲・態度	小児歯科に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	小児歯科学は、胎児期から成人に至るまでの顎・顔面・口腔領域の健康を維持・増進を目的としている。そのための必要な知識と方法について学ぶ。また、発達段階を踏まえた疾病や異常の予防・治療および小児の歯科健康管理についての授業も行う。さらに、小児歯科における予防処置・診療補助・保健指導などについても専門的に学ぶ。 学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		90	-	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で評価を行います。受講態度は学修への取組状況によって評価します。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収しチェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 小児歯科 第2版』医歯薬出版(3,740円) ISBN:978-4-263-42865-8						
参考書・教材	小児歯科学（ベーシックテキスト&クリニカルテキスト）第2版/永末書店 小児歯科学第4版/医歯薬出版 他に必要な資料は授業で配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	小児歯科学概論：小児歯科の定義と目的について述べた後、小児歯科診療と歯科衛生士の役割について言及していく。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児歯科の歯科診療の中での位置付けについてまとめる。（1h）						
2	小児の心身の成長・発達：発育の評価と生理的年齢について解説し、身体的成長と精神的発達の面に言及し、さらに小児の生理的特徴について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児の身体的成長と精神的発達についてまとめる。（1h）						
3	小児の顔面頭蓋の発育：小児の顎顔面頭蓋の発育様式と発育の評価法について、生体を直接計測する方法とレントゲンや模型で間接的に計測評価する方法を述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に小児の顎顔面頭蓋の発育様式の特徴についてまとめる。（1h）						
4	歯の発育と異常：歯の発育段階について述べ、各発育時期における障害による歯の形成障害について解説する。また、歯の萌出とその異常についても言及する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯の発育のステージと障害の発生との関連についてまとめる。（1h）						
5	歯列・咬合の発育と異常：乳歯列期と混合歯列期における歯列・咬合の発育の特徴と、その異常を遺伝と環境の両面から解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、咬合発育段階における歯列・咬合の変化についてまとめる。（1h）						
6	小児の歯科疾患：小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について述べるが、特に小児における歯肉炎、歯周炎、歯肉増殖症について詳述する。1 - 6の課題の確認のため、まとめを行う。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に小児に発生する歯肉炎、歯周炎の特徴についてまとめる。（1h）						
7	小児期の特徴と歯科的問題点：小児期を低年齢児、学童期、思春期の3ステージに分け、それぞれの時期での小児の特徴や留意点、特徴的歯科疾患について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、小児の発達時期に応じた歯科的問題点についてまとめる。（1h）						
8	小児歯科診療体系（1）診査・診断：小児の歯科診療とその特徴、小児歯科における診査・診断、さらに保護者教室の意義について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、一口腔単位として小児の口腔における診査・診断の重要性をまとめる。（1h）						
9	小児歯科診療体系（2）治療について：小児歯科における保存的、口腔外科的治療並びに咬合誘導について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に幼若永久歯の歯内療法についてレポートを課す。（1h）						
10	小児患者の対応法：診療室における小児の態度と行動について臨床心理学的観点から解説し、歯科治療時の実際的対応法について言及していく。 [課題（予習）]小児歯科臨床における不協力児の場面に対する介入方法におけるレポートを課す。（1h）						
11	障害児の歯科治療：障害の種類とその全身的・歯科的特徴について述べ、実際の対応について言及する。7 - 11までの課題についてレポート等の提出に基づいて確認し、発表とまとめを行う。 [課題（予習）]学修内容を予習し、障害の種類に応じた口腔の特徴についてまとめる。（1h）						
12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(1)予防業務：診察・検査時の業務とう蝕予防について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診察・検査時の業務とう蝕予防についてまとめる。（1h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(2)診療補助：実際の小児歯科診療時の補助業務について述べる。 [課題(予習)]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診療補助業務についてまとめる。(1h)
14	小児の口腔健康管理と器材の管理：乳幼児期から学童期、思春期に至るまでの口腔健康管理を中心に解説する。 [課題(予習)]学修内容を予習し、小児の口腔保健管理についてまとめる。(1h)
15	授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的まとめを行う。学修した内容を項目ごとにまとめ課題確認をする。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。(1h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深めること。学修していく中で、疑問点やわからないことが出てきた場合には、海原研究室(G206)を訪ねてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来、小児歯科医療を支える歯科衛生士になるために、真摯な気持ちで受講して下さい。予習と復習をしっかりと行って積極的に授業に取り組んで下さい。 配布資料には学習上重要なポイントがはっきり示されています。完璧に覚えるようにして下さい。 オフィスアワーは、G206で毎週木曜日の5時限目16:20～17:30です。

【4H2S110】歯科放射線学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	海原 康孝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師(大学病院勤務)・27年						
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とする。教科書だけでなくスライドや配付資料を使うこともある。授業に発表や討論も取り入れる。						
到達目標	知識・理解	歯科におけるエックス線写真と画像診断、放射線とその性質、それに関連する項目について基本的な知識を理解できる。					
	関心・意欲・態度	エックス線撮影の準備手順や留意点に関する課題に関心を持ち、積極的に考え努力して学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科医療に必須の放射線画像の成り立ちと症例に基づいた画像診断について学ぶ。エックス線写真の撮影方法や、安全な利用方法、放射線治療についても学ぶ。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		90	-	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版(3,080円) ISBN:978-4-263-42828-3						
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科医療と放射線 (歯科医療におけるエックス線の役割、エックス線の性質と全体への影響、放射線防御について理解する。) [課題(復習)]歯科医療におけるエックス線の果たす役割について復習し、まとめる。(4h)						
2	エックス線画像の形成 (エックス線画像の成り立ち、エックス線と生体物質の相互作用、エックス線フィルム、エックス線センサーについて学ぶ。) [課題(復習)]エックス線画像の成り立ちについて復習し、まとめる。(4h)						
3	歯科におけるエックス線検査(1) (口内法エックス線撮影、パノラマエックス線写真について学ぶ。1、2の課題の確認も行う。) [課題(復習)]歯科治療に最も多く用いるエックス線撮影装置について復習し、まとめる。(4h)						
4	歯科におけるエックス線検査(2) (頭部エックス線規格撮影、その他の様々な画像検査法について学ぶ。) [課題(復習)]矯正歯科、口腔外科領域で用いる画像検査法について復習し、まとめる。(4h)						
5	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (口内法エックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。3、4の課題の確認も行う。) [課題(復習)]口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)						
6	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (パノラマエックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。) [課題(復習)]パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)						
7	写真処理と画像保管の実際 (写真処理の方法と手順、写真保管について学ぶ。) [課題(復習)]写真処理と画像保管の実際について復習し、まとめる。(4h)						
8	放射線治療と口腔管理 (口腔癌の放射線治療や放射線治療患者の口腔管理について学ぶ。5~7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]放射線治療と口腔管理について復習し、まとめる。(4h)						
時間外での学修	教科書や講義の内容をよく復習し理解を深め、確実に学修しましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】						
受講学生へのメッセージ	予習・復習をしっかりとって授業に出席してください。重要事項は配布資料に明記されています。完璧に覚えるようにして下さい。オフィスアワーは毎週木曜日の5時限目16:20~17:50(研究室にて)です。						

【4H3S201】歯周病予防基礎		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	小牧 令二					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	開業歯科医師41年					
授業方法	講義が主体で、毎回、復習プリントの質問を受け付けます。					
到達目標	知識・理解	歯周疾患の罹患状況の概略を説明できる。 歯周組織の構成要素をあげ、その組織図を描ける。 歯周疾患の分類とその特徴を説明できる。 歯周病の原因である直接因子と修飾因子を説明できる。 歯周治療の進め方とその内容の概略を説明できる。 歯周治療の流れに従った歯科衛生士の役割を説明できる。				
	関心・意欲・態度	積極的に学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯を支える組織の病気である歯周病は、う蝕と共に歯科の2大疾患といわれ、歯を失う原因の半分以上を占めています。歯周病の予防と治療の大部分は歯科衛生士の業務範囲にあり、歯科衛生士の役割は歯周病治療において非常に重要です。本教科では、歯周病についての基礎知識と予防・治療法について学び、歯周病予防・治療の理論的根拠を考えられるようになることを目指します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	ICT活用					
課題に対するフィードバック	復習プリントの質問に対して回答します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9 『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2					
参考書・教材	その他 資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論> 日本における歯周病罹患の実態を学ぶ。歯周治療の概要を知る。 [課題(復習)]歯の喪失原因と歯の健康についてまとめる。(1h)					
2	<歯周組織の理解> 歯周組織の構造と機能を復習し、組織図が正しく描けるようにする。 歯肉炎と歯周炎の違いを学ぶ。 [課題(復習)]歯周組織を覚え、図が描けるようにする。(1h)					
3	<歯周病の分類と原因> 歯肉炎と歯周炎の分類と原因について知る。 局所的原因と全身的原因があることを学ぶ。 [課題(復習)]歯肉炎と歯周炎の違いを図示できるようにする。(1h)					
4	<歯周病菌の理解> 歯周病の原因とされている微生物の種類を学ぶ。 [課題(復習)]歯周病に関係する微生物の名前を覚える。(1h)					
5	<発症のメカニズム> なぜ、歯周病が起きるのか。微生物と免疫との関係について学ぶ。 [課題(復習)]発症のメカニズムについて理解し、まとめる。(1h)					
6	<全身と歯周病との関係> 歯周病が全身に与える影響と全身的原因を理解する。 [課題(復習)]全身的原因と歯周医学について項目を覚える。(1h)					
7	1回～7回までの課題を確認する。 <歯周病の臨床症状> 歯周病になるとどのような症状がおきるのか、また、なぜそれが起きるのかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周病の症状について理解し、まとめる。(1h)					
8	<歯周治療の進め方> 臨床では、歯周治療がどのように進められるか、理解する。 また、歯科衛生士はどのような役割があるかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周治療の順番を覚える。(1h)					
9	<問診から歯周検査> 歯周治療に必要な歯周検査の種類を知学ぶ。 [課題(復習)]検査の項目を覚える。(1h)					
10	<歯周検査の意味> 実習で行っている歯周検査の意味を理解する。 [課題(復習)]それぞれの検査の意味を理解し、まとめる。(1h)					
11	<歯周基本治療(イニシャルプレパレーション)> 歯周治療の基本となる治療である。 どのような目的で、どのような内容を行なうのかを学ぶ。 [課題(復習)]歯周基本治療の目的と手順を覚える。(1h)					
12	<再評価> 治療の効果を見るために評価を行なうが、その目的と内容について学ぶ。 [課題(復習)]再評価の目的と意義を理解し、まとめる。(1h)					
13	<歯周外科> 歯周外科の種類と手順、使用器具を知る。根分岐部病変への処置法を学ぶ。 [課題(復習)]歯周外科の種類と使用器具を覚える。(1h)					
14	<リハビリテーション> 歯周外科後の歯周補綴、矯正、咬合調整の概要について学ぶ。 [課題(復習)]リハビリテーションのそれぞれの目的を覚える。(1h)					
15	8回～14回までの課題を確認する。 <メンテナンス> メンテナンスの内容とその必要性を理解する。 [課題(復習)]メンテナンスの必要性を説明できるように要点を覚える。(1h)					
時間外での学修	初回到復プリントを配付します。授業を聞いて、プリントで復習するようにしてください。歯周組織の構造や歯周病の原因を理解することが前提となるので、前期で学ぶ、口腔解剖学・病理学・微生物学を事前に復習してください。[この課題で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]					

受講学生への
メッセージ

歯周病予防技術法の基礎となる教科です。国家試験においても重要な内容です。本試験は復習プリントを中心に教科書から出題します。教科書を熟読し、プリントを基に復習しておいてください。質問は学生全員で共有するため授業の初めにしてください。

【4H3S402】歯周病予防技術法		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	今井 藍子・藤塚 未子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	今井：歯科医院歯科衛生士・10年 藤塚：歯科医院他歯科衛生士・5年						
授業方法	実習科目です。講義で基礎知識を理解した後は、実習中心の授業となります。回を追うごとに手技の訓練を積み重ね、技術を向上させていきます。						
到達目標	知識・理解	歯科予防処置の概要を知り、歯石除去の目的を理解できる。 歯石除去の使用器具・方法について説明できる。					
	思考・判断・表現	実習の内容を示すことができる					
	技能	歯石除去の器具を用い、模型上で基本操作が正しく実施できる。 マネキンを使用し、歯肉縁上歯石の除去操作が正しく実施できる。 シャープニング法を理解し、シクルタイプスクレーラーのシャープニング操作ができる。					
	関心・意欲・態度	歯周病予防の技術修得のために、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科予防処置とは、歯や歯肉の疾患を予防するための専門家によって行われる処置をいい、歯周病に対するものと、う蝕に対するものがあります。この教科では歯周病の予防・治療の専門的技術である歯石除去法の技術を修得します。歯周病の概要と原因を知り、歯石除去の術式に使用する器具の基本的取扱いや模型上での歯石除去操作を修得します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験(筆記試験)		40	-	-	-	40
	定期試験(実技試験)		-	-	40	-	40
	小テスト		5	-	-	-	5
	レポート		-	5	-	-	5
	履修カルテ・受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		45	5	40	10	100	
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験それぞれ6割の取得が必要です。 実習態度は学修の取り組み、提出状況とします。						
ICT活用	ICTを利用した自主学修支援 学生ポータルを利用し、質問等を受け付けます。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4						
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯周病予防の概要・使用器材の確認：歯科予防処置の中の歯周病予防について、歯周病の概要と原因を理解する。使用器材の名称を理解する。 [課題(復習)]歯周病予防の概要・使用器材について復習する。(0.5h)						
2	口腔の構造と付着物・沈着物について：課題の確認。歯や歯周組織の構造や付着物・沈着物を理解する。 [課題(復習)]歯周組織・歯の構造、付着物・沈着物について復習する。(0.5h)						
3	手用スクレーラーの種類と特徴：課題の確認。手用スクレーラーの種類と特徴を理解し、基本操作を実習する。 [課題(復習)]手用スクレーラーの基本操作を復習する。(0.5~1h)						
4	マネキンの操作法：課題の確認。マネキンの操作法を知り、シクルタイプスクレーラーを模型上で操作する。 [課題(復習)]シクルタイプスクレーラーの模型上での操作を復習する。(0.5~1h)						
5	歯石除去法：課題の確認。上顎前歯部のマネキン実習 [課題(復習)]上顎前歯部のスクレーリング操作を復習する。(0.5~1h)						
6	相互実習：口腔内の観察をし、歯周組織を理解する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り、内容をまとめる。(1h)						
7	歯石除去法：課題の確認。下顎前歯部のマネキン実習 [課題(復習)]下顎前歯部のスクレーリング操作を復習する。(0.5~1h)						
8	相互実習：口腔内の観察をし、器材の使用法を理解する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り、内容をまとめる。(1h)						
9	シャープニング法：課題の確認。シクルタイプスクレーラーのシャープニングを実習する。 [課題(復習)]シクルタイプスクレーラーをシャープニングし提出する。(1h)						
10	歯石除去法：課題の確認。下顎臼歯部のマネキン実習 [課題(復習)]下顎臼歯部のスクレーリング操作を復習する。(1h)						
11	歯石除去法：課題の確認。上顎臼歯部のマネキン実習 [課題(復習)]上顎臼歯部のスクレーリング操作を復習する。(1h)						
12	実技のまとめ：課題の確認。歯周病予防の知識を整理し、スクレーリング操作を復習する。 [課題(復習)]課題部位のマネキン上でのスクレーリング操作を復習する。(1h)						
13	実技チェック：マネキン実習で修得した技術を試験形式で確認する。						
14	まとめ・偶発事故防止：総復習。偶発事故防止のための対処法を理解し、相互実習の流れを把握する。						
時間外での学修	[課題(復習)]の内容を確実に学修し授業に臨んでください。自主トレーニングを通して、確実に技術を身につけることが大切です。疑問点は質問をして解決していきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：9時間】						
受講学生へのメッセージ	技術を積み重ねて身につけるため、欠席をしないように健康管理を十分行ってください。授業内容の詳細を毎回掲示しますので忘れずに確認してください。 オフィスアワーは研究室で木曜日の5限目です。						

【4H3S403】歯周病予防技術法		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	今井 藍子・大谷 悦世・川島 智子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	今井：歯科医院歯科衛生士・10年 川島：歯科医院歯科衛生士・6年 大谷：歯科医院他歯科衛生士・13年						
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を理解した後、実習で技術を修得します。特に、相互実習で生体への配慮を行いながら技術を向上させていきます。						
到達目標	知識・理解	歯周組織診査の目的や得られる情報を理解することができる。 歯周組織診査の使用器具の用途や特徴が説明できる。 超音波・エアスケーラーの種類や特徴、使用方法を説明できる。 歯面研磨の目的や特徴、使用方法を説明できる。					
	思考・判断・表現	相互実習の術式、内容を示すことができる。 相互実習で生体への配慮を示すことができる。					
	技能	歯周組織診査の項目に合った器具を操作できる。 超音波・エアスケーラー、歯面研磨に合った器具を適切に操作できる。 生体への配慮や医療安全を意識して相互実習を実施できる。 施術にあたって患者指導が適切に行える。					
	関心・意欲・態度	医療人としての自己管理をし、主体的に実習に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯周疾患の予防・治療のためには、口腔内状況を把握するための情報収集が重要です。そのために、歯周組織診査を実習し、情報を得ることを学びます。「歯周病予防技術法」と同様に、専門器具を使用して歯石除去、歯面研磨の知識・技術を修得します。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験(筆記・実技)		30	-	45	-	75
	小テスト		5	-	-	-	5
	レポート		-	10	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		35	10	45	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験でそれぞれ6割の取得が必要です。 受講態度は身だしなみ・忘れもの等とします。						
ICT活用	ICTを利用した自主学修支援 学生ポータルを利用し、質問等を受け付けます。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行います。 レポートのコメントを返します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9						
参考書・教材	『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2 その他参考資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	触診・洗浄・貼薬 : 口腔内の状況把握のため触診・洗浄・貼薬の方法を理解し、器具を操作する。						
2	触診・洗浄・貼薬 (相互実習) : 生体への配慮をしながら器具を操作し、触診・洗浄・貼薬の相互実習をする。 [課題(復習)]器具の操作法と薬品の使用法をまとめる。(1h)						
3	歯周組織診査 : 課題の確認。ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定、歯の動揺度の測定を理解する。						
4	歯周組織診査 (相互実習) : ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定の相互実習をする。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる。(1h)						
5	歯周組織診査 (相互実習) : 課題の確認。ポケット測定、歯肉出血度、歯の動揺度の測定の相互実習をする。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる。(1h)						
6	歯石除去法 (超音波スケーラー・エアスケーラーによる歯石除去法) : 課題の確認。超音波スケーラー・エアスケーラーの原理と特徴、操作方法を理解する。						
7	歯石除去法 (相互実習) : 超音波スケーラー・エアスケーラーを使用し、相互実習をする。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる。(1h)						
8	歯面研磨法 : 課題の確認 歯面研磨の基礎知識を理解する。マネキン上で歯面研磨のロールプレイ実習する。						
9	歯面研磨法 (相互実習) : 歯面研磨を相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる。(1h)						
10	歯石除去法・歯面研磨法・歯周組織診査 (相互実習) : ポケット測定、超音波スケーラー・エアスケーラーを使用した歯石除去、歯面研磨を相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる。(1h)						
11	実技チェック : これまでの実習内容を、試験形式で技術の確認をする。						
12	結果・まとめ : 課題の確認。基本技術の総復習をする。						
13	知識チェック : これまで学んだ内容を、試験形式で確認をする。						
時間外での学修	相互実習を円滑に行うために、予習・復習をしっかりと行って授業にのぞんでください。実習時間内で技術力が十分でないときには自主的に練習をしてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：6時間】						

受講学生への メッセージ	相互実習はグループで行うので欠席すると迷惑をかけます。欠席をしないように健康管理を十分行ってください。 オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。
-----------------	---

【4H3S205】う蝕予防処置法		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大谷 悦世・松川 千夏						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大谷：歯科医院・介護施設他、歯科衛生士：13年 松川：歯科医院・保健センター他、歯科衛生士：20年						
授業方法	演習科目です。講義・示説を行った後、演習や実験を行って知識を深めていきます。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・う蝕の成り立ちについて理解し、う蝕予防の考え方と予防方法を理解する。 ・フッ化物局所応用法について種類、試用薬剤を理解する。 ・う蝕活動性試験の種類、特徴を理解する。 					
	思考・判断・表現	・演習で得た知識をまとめ、個人のう蝕予防計画を立案する。					
	関心・意欲・態度	・う蝕予防処置法の知識を修得するために、積極的に学修に取り組むことができる。					
授業内容	う蝕予防は、各個人が日常的に取り組んでいるが、う蝕をなくすまでに至っていない。そこで、う蝕の病因、プロセスを専門的に捉え、リスク検査を通してフッ化物の応用を中心としたう蝕予防法の基礎知識について学ぶ。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験		80	-	-	-	80
	小テスト		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	課題		-	5	-	-	5
	合計(点)		85	5	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修の取り組み、課題提出状況等とします。フィードバックとして理解度確認テストを実施し、解答の解説をします。						
ICT活用	学生ポータルやGoogle classroomで質問等に対応します。						
課題に対するフィードバック	課題のコメントは講義内で行います。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN: ISBN978-263-42863-4 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版株式会社(3,960円) ISBN: ISBN978-4-263-42241-0						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	う蝕予防処置とは：専門家によるう蝕予防処置の種類を理解する [課題(復習)]う蝕予防処置法の特徴を復習する(1h)						
2	う蝕予防の基礎：う蝕の病因、発症にプロセスを理解し、う蝕予防法が説明できる [課題(復習)]う蝕予防の基礎知識を復習する(2h)						
3	う蝕活動性試験法：各う蝕活動性試験を行い、結果をまとめる [課題(復習)]う蝕活動性試験の結果を分析し、予防法を考える(2h)						
4	う蝕活動性試験法：各う蝕活動性試験を行い、結果をまとめる [課題(復習)]う蝕活動性試験の結果を分析し、予防法を考える(2h)						
5	う蝕予防法の実際：フッ化物によるう蝕予防法を理解する フッ化物局所応用法：フッ化物局所応用法の種類、使用薬剤の知識、作用機序を理解する [課題(復習)]フッ化物局所応用法を整理し復習する(2h)						
6	フッ化物局所応用法：ライフステージ別のフッ化物局所応用(フッ化物配合歯磨剤)について理解する [課題(復習)]ライフステージ別のフッ化物局所応用について復習する(2h)						
7	フッ化物局所応用法：フッ化物溶液の至適量を実験を通して理解する [課題(復習)]実験結果からフッ化物局所応用法の使用薬剤量を把握する(2h)						
8	フッ化物局所応用法：フッ化物の急性中毒量の算出を演習を通して理解する まとめ：齲蝕予防処置の知識を整理しまとめる [課題(復習)]各種フッ化物の急性中毒量の算出法を復習する(2h)						
時間外での学修	テキストや授業中に配布した資料で復習し、理解を深めるようにしてください。 【この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	う蝕予防処置法の基礎となる大切な科目です。健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。オフィスアワーは研究室で木曜日5限です。						

【4H4S201】歯科保健指導基礎		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	川島 智子・大林 泰二					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	川島智子：歯科医院 歯科衛生士6年 大林 泰二：大学病院等勤務 歯科医師15年					
授業方法	講義・演習を中心とした授業となります。歯科予防処置関連実習、口腔衛生学、歯科衛生士概論などに関連付けて学修します。					
到達目標	知識・理解	歯科保健指導の定義、考え方を説明できる 健康の概念を説明できる 口腔内の付着物・沈着物と歯垢染色剤の特徴について説明できる 歯ブラシや補助的清掃用具の使用目的、選択方法を説明する 歯磨剤や洗口剤の含有成分とその作用、適応症、使用方法を説明する 各種ブラッシング方法の特徴を説明できる				
	思考・判断・表現	自分の口腔内を観察できる 自分に合った口腔清掃方法を工夫できる				
	技能	自分の口腔内の歯垢染色とプラークチャート作成ができる スクラッピング法の操作ができる デンタルフロスの操作ができる				
	関心・意欲・態度	自分の口腔内の観察に能動的に取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学修や課題を積極的に進めようとする態度				
授業内容	歯科保健指導とは、「個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために行われる専門的な指導」のことを言います。健康の増進をはかるための継続的な歯科保健指導業務を行うために、この授業では、歯科保健指導の目的や意義・必要性を理解することから始めます。さらに、歯ブラシや補助清掃用具、歯磨剤の種類や用途の調査・使用方法、歯垢染色剤の種類や染色方法や各種ブラッシングの特徴を学び、歯科保健指導を行うにあたり必要な基礎知識や技術を身につけることと、自分の口腔衛生習慣を変容させることを目的としています。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	-	-	-	50
	実技試験	-	10	10	-	20
	課題提出	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	20	10	10	100
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けるが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。 筆記試験は、全8回で学修した知識について評価します。 課題は、自分の考えを表現できているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られたかなどについて評価します。また、自分自身の口腔内の理解、今までの口腔衛生習慣から変容するための工夫などについて評価します。 実技試験は、ブラッシング技術と補助清掃用具(デンタルフロス)の操作方法について評価します。 受講態度は、学修への取組、課題提出、身だしなみ・忘れ物などについて評価します。					
ICT活用	ブラッシング法やその他の清掃用具の操作法について、動画を撮影しclassroomより提出してもらいます。					
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:78-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学(第3版)』医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7					
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	口腔の基礎知識(歯科保健指導を学ぶ上で必要な口腔・口腔周囲の構造)について学修する。 自分の口腔内を観察する。 [課題(復習)]：口腔・口腔周囲の構造に関する用語を復習する。自分の口腔内の観察をする。(2h)					
第2回	歯面の付着物・沈着物(種類、成分、特徴)、その観察(観察法の種類と目的)、プラーク(歯垢)の観察を目的として使用する、歯垢染色(剤)の特性(染色のメカニズム、使用される色素、所要条件)の種類、使用方法について学修する。 [課題(復習)]：自分の口腔内の観察結果からわかったことをまとめる。(1h)					
第3回	歯ブラシの知識(構造、形態的特徴)について学修する。自分の歯ブラシの形態的特徴を調査する。ブラッシングの知識(歯ブラシの把持、ブラッシング圧、ブラッシング方法の種類)について学修する。 [課題(予習)]：普段使用している歯ブラシの形態を調べる。(1h) [課題(復習)]：選択した歯ブラシを使用してブラッシングを実践する。歯垢染色をしてプラークの付着状況の変化を観察する(1h)					
第4回	各種ブラッシング法の知識(適応、特徴と留意点、ブラッシング方法に合わせた歯ブラシの選択)、各種ブラッシング法の技術(部位別の操作法)について学修する。 自分の口腔内の特徴に合わせた歯ブラシとブラッシング方法の組合せを考察する。 [課題(復習)]：各種ブラッシング方法の手技を復習する。自分にあったブラッシング方法で実践する。(2h)					
第5回	第1～4回までのまとめをする。 その他の清掃方法(補助清掃用具(デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ)の知識・適応・操作方法)について学修する。 自分の口腔内でデンタルフロスの操作を実施する。自分の口腔内の特徴に合わせた補助清掃用具を選択する。 [課題(復習)]：自分の口腔内で、補助清掃用具(デンタルフロス、タフトブラシ、歯間ブラシ)の操作ができるようにする。(2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
第6回	<p>歯磨剤・洗口液・洗口剤の知識(関連する法律と効果効能、基本成分と薬効成分、剤型による分類、使用方法、適応)について学修する。</p> <p>[課題(予習)]: 普段使用している歯磨剤の成分を調べる。(1h)</p> <p>[課題(復習)]: フッ化物配合歯磨剤の使用方法についてまとめ、その方法を実践する。(1h)</p>
第7回	<p>歯科保健指導とは何か、意義とその特性、歯科衛生士法における位置づけについて学修する。</p> <p>[課題(復習)]: 歯科保健指導とは何か、健康とは何かについて復習する。(1h)</p>
第8回	<p>第1回から第6回で学修した内容から、自分の口腔内を観察し、口腔衛生状態を分析して改善する。第1回から第7回のまとめをする。</p> <p>[課題(復習)]: 第1~8回のまとめをする。(2h)</p>
時間外での学修	<p>自分自身の口腔内の状況を観察できるようにしてください。自分自身の口腔衛生状態を意識して、より良い保健行動へ変容できるように心掛けてください。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間: 16時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>課題は指定された日時に提出してください。オフィスアワーはG405で木曜日5限目です。</p>

【4H4S202】保健指導法		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	川島 智子・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	川島智子：歯科医院歯科衛生士6年 今井藍子：歯科医院歯科衛生士10年					
授業方法	授業は、グループワークや相互実習を中心に進めていきます。					
到達目標	知識・理解	歯と歯周組織(正常像・疾患像)と歯の付着物・沈着物について説明できる PCR、OHI、OHI-Sの特徴・評価方法と計算方法および計算ができる 情報収集の目的や得られる情報を説明できる 問診と医療面接のちがいを、目的を説明できる 相互実習での患者状況、実習内容、学んだことなどを具体的に記述できる				
	思考・判断・表現	相互実習において歯垢染色する際に患者への配慮ができる 相互実習における術者の態度について改善点を指摘できる 収集したデータをSデータとOデータに分類し、対象者の問題点を抽出できる インターネットを活用して保健指導に必要な情報を収集することができる				
	技能	相互に歯垢染色とブラークチャート作成ができる 相互に健康調査票を用いた医療面接が実施できる				
	関心・意欲・態度	グループワークや相互実習に能動的に取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学修や課題を積極的に行うことができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯科衛生過程とは、『対象者が抱えている問題を明確化し、問題の解決方法を計画し、介入していくために必要な一連の思考と行動のプロセス』のことです。この授業では、対象者の歯科衛生上の問題点を探るため、生活習慣や考え方、ニーズ、口腔内環境を正確につかむ能力を身につけることを目的としています。そのため、各種指数の算出・評価方法、また医療面接の考え方のもとに行う対象者の情報収集、SOAPによる書面化について学修します。歯周病予防技術法 と関連付けて実習を展開します。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	課題(レポート)	20	10	-	-	30
	実技試験	-	10	10	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	20	10	10	100
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けるが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。 筆記試験では、全8回で学修した知識と各種指数の計算について評価します。 レポートは、評価は自分の考えを表現できているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られたかなどについて評価します。 実技試験では、ブラークチャートの正確さと患者への配慮を主に評価します。 受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ・忘れ物などの状況の評価します。					
ICT活用	保健指導に必要な情報収集のためのインターネットを活用した情報収集方法を学修します。					
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学(第3版)』医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士臨床のためのQuint Study Club 診査関連編1 しっかり測定できる! 歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円) ISBN:978-4-7812-0039-2 『最新歯科衛生士教本 歯周病学(第2版)』医歯薬出版株式会社(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9					
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	保健指導法 の授業の概要について理解する。保健指導とは何か、保健指導はなぜ必要かについて学修する。自分の口腔内の観察をする。 [課題(復習)]第1回の授業内容について復習する(2h)					
第2回	歯と歯周組織(正常像・疾患像)、口腔内の付着物・沈着物、口腔内診査記号について学修する。医療面接とは何か、口腔衛生に関連する生活習慣の情報を収集するための質問項目について学修する。 [課題(復習)]次回相互実習に向けて、実習手順と観察ポイント、口腔内診査に必要な器具の操作、口腔内診査記号について学修する。相互実習時の感染予防対策について学修する。(2h)					
第3回	相互実習 口腔内診査(歯数、加エクスプローション、歯肉(PMAIndex)、歯石の探査)と、歯垢染色、ブラークチャートの作成をする。第2回の課題について確認する。 [課題(復習)]相互実習後の術者評価(自己評価)と反省を記録する。口腔内診査表をまとめる。(2h)					
第4回	第1～3回のまとめをする。口腔衛生状態を評価するための指数O'Learyのブラークコントロールレコード(PCR)について学修する。 [課題(復習)]口腔衛生状態を評価するための指数O'Learyのブラークコントロールレコード(PCR)について復習する。(2h)					
第5回	口腔衛生状態を評価するための指数、OHI、OHI-Sについて学修する。 [課題(復習)]口腔衛生状態を評価するための指数O'Learyのブラークコントロールレコード(PCR)、OHI、OHI-Sについて復習する。(2h)					
第6回	業務記録とは何か、SOAPを用いた業務記録作成法を学修する。口臭測定検査について学修する。実際のデータから、SOAPの業務記録を作成する。 [課題(復習)]SOAP、口臭測定検査について復習する(2h)					
第7回	実際のデータをもとに、SOAPの業務記録を作成する。第1回～第6回のまとめをする。 [課題(復習)]相互実習で情報収集した実際のデータをもとに業務記録を作成する。(2h)第1～7回のまとめを行う。(2h)					
第8回	第1回から第7回までのまとめと知識の確認をする。(筆記試験)					

時間外での学修	正確に口腔内の状況を判断できる力を身に付けるようにしてください。グループワークや相互実習が中心となりますので、各自責任をもって相互実習に向けて準備・課題をしっかり行ってください。また、相互実習時における感染予防対策に関する注意事項の確認と準備を徹底して行ってください。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：16時間]
受講学生へのメッセージ	課題は指定された日時に提出してください。オフィスパワーはG405で木曜日5限目です。

【4H4S104】発達口腔保健学		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	松川 千夏					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松川：歯科医院・保健センター他歯科衛生士・20年					
授業方法	講義とグループでの演習形式で行います。質問等がある場合、学生ポータルやメールで受け付けます。					
到達目標	知識・理解	口腔と健康支援かできるように、妊産婦期・新生児期・乳児期・幼児期の特徴を各歯科保健対策について理解できる。()				
	思考・判断・表現	課題レポートを行い、その内容について説明できる。()				
	関心・意欲・態度	医療人として自己の体調管理ができ、提出物を期限内に提出できる。()				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	ライフステージ別（妊産婦期、新生児期・乳児期、幼児期）の一般的特徴と口腔の特徴を理解し、対象者に応じた歯科保健指導および食事指導が行えるように、歯科的特徴や問題点を確認し、歯科保健対策を考えていきます。妊産婦期から幼児期までの各ライフステージの歯科保健対策における歯科衛生介入について学びます。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験	80	-	-	-	80
	小テスト	5	-	-	-	5
	レポート	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	85	5	-	10	100
評価の特記事項	思考・判断・表現の評価は指定された課題レポートで行います。フィードバックとして課題にコメントし返却します。					
ICT活用	学生ポータルやGoogle classroomで質問等に対応します					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは講義内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『歯と口の健康百科』医歯薬出版株式会社(3,960円) ISBN:978-4-263-44387-3					
参考書・教材	最新歯科衛生士教本『栄養と代謝』医歯薬出版株式会社 『食品成分表2022』女子栄養大学出版部 その他、必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論> ライフサイクル論とライフステージの区分および歯科衛生介入について学ぶ。 母子歯科保健の意義について理解する。 [課題(復習)] ライフステージの区分、母子歯科保健の意義について復習する。(3h)					
2	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期> 妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について学ぶ。 [課題(復習)] 妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について復習する。(3h)					
3	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期> 妊産婦期の栄養と食生活指導について学ぶ。 課題提示(下記「時間外での学修」参照) [課題(復習)] 妊産婦期の栄養と食生活指導について復習する(4h)					
4	ライフステージにおける歯科衛生介入2 <新生児期・乳児期> 新生児期・乳児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について学ぶ。 [課題(復習)] 新生児期・乳児期の歯科保健行動、離乳期の食生活指導について復習する。(4h)					
5	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期> 幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について学ぶ。 [課題(復習)] 幼児期の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導について復習する。(4h)					
6	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期> 幼児期の食事指導(1日の栄養摂取と間食摂取)について演習を行う。 [課題(復習)] 幼児期の食事指導について復習する。(4h)					
7	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期> 幼児期の歯科保健指導 寝かせ磨きのポイントを理解し顎模型上で実習を行う。 [課題(復習)] 寝かせ磨きのポイントを復習し、自己の改善点を検討しまとめる。(4h)					
8	ライフステージにおける歯科衛生介入 妊産婦期～幼児期のまとめ 課題(妊産婦期)のフィードバックを行う。 [課題(復習)] 妊産婦期～幼児期までの復習と知識の確認を行う。(4h)					
時間外での学修	課題レポート：「妊娠期における口腔衛生指導と食生活指導」について文献で調べ内容をまとめ提出すること。提出時期は、3回目の講義で連絡します。提出期限を守りましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	口腔から全身をとらえ対象者の健康づくりを支援していく立場になることを十分に理解してください。演習時はグループ別で取り組むこともあるため、各自が主体的な態度で臨んでください。オフィスアワーは研究室で木曜日の5限です。授業で不明な点があれば質問に来てください。					

【4H4S208】コミュニケーション演習		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	加藤 智樹					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション、レポートなどによる授業を実施する。(原則2限続きで実施される。進行状況などにより内容を入れ替えることがある。)					
到達目標	知識・理解	・患者様や御家族様はじめ、歯科医師・歯科技工士・他の医療福祉分野の様々な職種のスタッフと、状況に応じた円滑なコミュニケーションをとることの重要性を理解する。 ・チーム医療の意義や成功するための条件、実施上の問題点について理解する。				
	関心・意欲・態度	・歯科衛生士としての患者様や関係スタッフとの関係性を良くするための工夫について自ら積極的に学ぶことが出来る。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯科衛生士は医療系対人援助職であり、患者様やご家族様はもちろんの事、歯科医師・歯科技工士・他の医療福祉分野の様々な職種のスタッフと、状況に応じた円滑なコミュニケーションをとることが必要である。本授業では歯科医療現場を中心としたコミュニケーション(チーム医療含む)の基本的知識やその技法等について解説する。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	50	-	-	-	50
	レポート	40	-	-	10	50
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	授業内で課すレポート(発表含む)への取り組み、筆記試験によって総合的に評価する。					
ICT活用	講義内容に関するインターネットサイトを紹介し、レポート作成に活用する。					
課題に対するフィードバック	レポート・筆記試験など実施後に振り返り(解説)を行う。					
テキスト	『特になし。』 毎回授業時に、資料を配布する。					
参考書・教材	授業内で適宜紹介する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	○「コミュニケーション演習」オリエンテーション ・コミュニケーションとは何か 日常生活や業務におけるやり取り事例を通じて、「コミュニケーション」の概要を理解し、議論する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
2	○チーム医療・チーム歯科医療 ・医療福祉系職種紹介 医療福祉関係の業務・職種にはどのようなものがあるか理解する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
3	○チーム医療・チーム歯科医療 ・医療(歯科含む)系職種紹介 医療関係の業務・職種にはどのようなものがあるか理解する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
4	○コミュニケーションに必要な教養 ・社会人として必要な教養 ・医療人として必要な教養 社会人として、また、対人援助職として必要な教養について理解する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
5	○コミュニケーションスキルの向上 ・聴く、話す、書く 円滑なコミュニケーションの実現には、「聴く」「話す」「書く」などが重要であることを理解する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
6	○コミュニケーションスキルの向上 ・ディクテーション(書き取り) 業務遂行のためには、ディクテーション(書き取り)が重要であることを理解する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
7	○コミュニケーションスキルの向上 ・事例演習 一般生活および医療福祉現場での事例をもとに、グループワークを通じて、自分と他者の考えを意識しながらの意見交換を体験する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
8	○コミュニケーションスキルの向上 ・事例演習 一般生活および医療福祉現場での事例をもとに、グループワークを通じて、自分と他者の考えを意識しながらの意見交換を体験する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					
9	○コミュニケーションスキルの向上 ・事例演習 一般生活および医療福祉現場での事例をもとに、グループワークを通じて、自分と他者の考えを意識しながらの意見交換を体験する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	○チーム医療・チーム歯科医療への応用 ・グループ発表課題割り振り ・グループ発表準備 歯科医療関連の事例をもとに、問題点と解決法を議論し発表準備を行う。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
11	○チーム医療・チーム歯科医療への応用 ・グループ発表準備 歯科医療関連の事例をもとに、問題点と解決法を議論し発表準備を行う。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
12	○チーム医療・チーム歯科医療への応用 ・グループ発表準備 歯科医療関連の事例をもとに、問題点と解決法を議論し発表準備を行う。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
13	○チーム医療・チーム歯科医療への応用 ・グループ発表 各グループによる発表を行い、討論する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
14	○チーム医療・チーム歯科医療への応用 ・グループ発表 各グループによる発表を行い、討論する。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
15	○まとめと振り返り ・重要事項の確認 ・教養確認テスト 円滑なコミュニケーションのために何が必要かを振り返り理解を深める。 [課題(予習・復習)]講義内で取り上げた内容を整理し説明できるようになる。(1h)
時間外での学修	授業でとりあげる内容に関して各自事前予習を行い、授業後は配付プリント等を復習し理解を深める事。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	日常のコミュニケーション時の自分の心の動き、対人関係の取り方のパターン、集団の動きの流れなどの理解に努め、コミュニケーションスキルの向上を図りましょう。担当教員のオフィス(研究室)は「G204」で、オフィスアワーは講義開始時に伝達します。

【4H5S101】診療補助総論		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	関谷 智子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	講義中心の授業です。教科書を主に配布資料やスライドを併用しながら行います。また、質問等については、オフィスアワーや学生ポータルで受け付けます。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が行う歯科診療補助について説明できる。 歯科医療における感染予防対策について理解し、その方法の基本的知識を修得できる。 医療廃棄物の区分を知り、歯科医院からでる廃棄物の廃棄方法を選択できる。 歯科診療室で使用される歯科材料の基本的性質や素材について理解できる。					
	思考・判断・表現	感染予防対策の各種方法を感染リスクと結びつけ、安全で信頼される歯科医療提供を考えることができる。					
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学修態度で取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科衛生士業務のひとつである歯科診療の補助について理解し、歯科臨床における安全な医療提供のための環境づくり、歯科医療の現場で必要とされる感染予防対策について理解を深めていきます。また、歯科衛生士は、歯科臨床の場で診療内容ごとに数多くの歯科材料を取り扱います。そのため、歯科材料の基本的性質を知ることが正しい操作方法の習得に繋がることから、その基礎知識についても学んでいきます。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		70	-	-	-	70
	小テスト		10	-	-	-	10
	レポート		-	10	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		80	10	-	10	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験で行われる試験です。小テストは課題の確認テストで、フィードバックとして採点返却後、解答解説を行います。受講態度は授業の取り組み、学修記録の内容、提出物提出状況から総合的に判断します。全授業の3分の1以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	質問等に学生ポータルを活用します。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして理解度確認テストを実施し、返却時解答の解説を行います。提出されたレポートにコメントを返します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 医歯薬出版(6,600円) ISBN: ISBN:978-4-263-42840-5 『歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄』 医歯薬出版(3,960円) ISBN: ISBN:978-4-263-44646-1 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』 医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42851-1 医歯薬出版(3,850円) ISBN: ISBN:978-4-263-42851-1						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業内容・目標: 歯科診療補助と歯科衛生士の役割(授業ガイダンス、診療の補助を行う医療職種とその業務を学び、歯科診療補助の法的解釈を学ぶ) [課題(復習)] 歯科診療補助業務の歯科衛生士法における法的位置づけについてまとめる。(2~3h)						
2	歯科診療室の基礎知識、医療安全について(歯科診療室の環境や設備について説明し、歯科診療室で行われている医療安全の実例について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、医療安全について考える。(3~4h)						
3	感染予防対策(感染を成立させる要因について学び、標準予防策について理解を深める) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、感染予防の必要性や感染予防対策の具体的内容についてまとめる。(5~6h)						
4	医療従事者の感染防御について(1~3の課題の確認。手指消毒の方法とその注意点、使用される消毒剤について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、医療従事者の感染防御の実際についてまとめる。(4~5h)						
5	医療従事者の感染防御について(感染防護具のマスク・グローブの種類や使用上の注意点について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、医療従事者の感染防御の実際についてまとめる。(4~5h)						
6	感染リスクとその対策、各種滅菌・消毒法の種類と分類(リスクアセスメントに基づく感染症対策の実例を学ぶ。感染症対策にかかわる滅菌・消毒法の種類について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、感染リスクとその対策についてまとめる。(4~5h)						
7	各種滅菌・消毒法の特徴と注意点(4~6の課題の確認。各種滅菌・消毒法をおこなう際の注意点について説明し、歯科用器材に適した滅菌・消毒法の選択について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容の復習。熱、温湯、熱湯による消毒についてまとめる。(3~4h)						
8	薬液消毒について(消毒剤有効活用のための留意点、薬液消毒の方法について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習、消毒剤の希釈と保管方法についてまとめる。(5~6h)						
9	各種消毒剤の種類と特徴(薬液消毒に使用される消毒剤の種類や用途とその区分について学ぶ) [課題(復習)] 消毒剤の抗微生物スペクトルを基に、消毒剤の選び方をまとめる。(4~6h)						
10	使用済み器具の感染予防対策の流れ(7~9の課題の確認、使用済み器材処理の各ステップごとの内容や注意点について学ぶ。使用済み器材の処理マニュアル作成要領説明) [課題(復習)] 指定された使用済み器材の処理マニュアルを作成する。(5~6h)						
11	診療室から出る廃棄物の区分と処理方法(廃棄物の区分を知り、医療廃棄物の分類と分別について学ぶ) [課題(復習)] 学んだ内容を復習し、歯科診療において排出される廃棄物の廃棄方法の流れについてまとめる。(3~4h)						
12	歯科材料の基礎知識(1) 歯科材料の分類と所要性質(配布した課題を活用して、歯科材料としての必要条件と機械的性質・物理的性質について学ぶ) [課題(予習)] 歯科材料の基本的性質について配付した課題をまとめ、性質に出てくる用語を理解する。(5~6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	歯科材料の基礎知識(2) 歯科診療の流れと歯科材料(歯科材料の化学的性質や素材について学び、う蝕の分類に基づく診療のステップごとに使用される歯科材料について説明する) [課題(復習)] 歯科材料の素材について理解を深める。(5~6h)
14	歯科材料: 印象材(10~13の課題の確認。印象材の使用目的を説明し、印象材の種類・用途・特徴について学ぶ) [課題(復習)] 各種印象材の組成や特徴をまとめ、用途別に分類する。(4~5h)
15	アルジネート印象材について(アルジネート印象材の主成分や長所、短所。取り扱い上の注意点について学ぶ) [課題(復習)] アルジネート印象材練和の使用器材や取り扱い法についてまとめる。(4~5h)
時間外での学修	講義内容は、概ね『歯科診療補助論 第2版』のテキストに則っているので、予習して受講するようにして下さい。また、課題の確認は確認テストを実施します。授業があったその日にテキストや配付されたプリント等で課題をおこない、理解を深めるようにして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間・60時間】
受講学生へのメッセージ	臨床において倫理に則った的確な判断や行動がとれることを目標に、常に実践を意識して受講して下さい。オフィスアワーは毎週木曜日授業開始前、授業予定の教室で12:25~12:55です。

【4H5S402】診療補助基礎		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	実習	45時間	
教員	藤塚 未子・小原 勝・大谷 悦世					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	藤塚 未子 歯科医院他 歯科衛生士 5年 小原 勝 大学病院勤務 歯科医師 15年 大谷 悦世 歯科医院他 歯科衛生士 13年					
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明し、事前に撮影した動画や、デモンストレーションの後、自ら知識・技術を修得します。また、相互実習前後の課題提出とそのフィードバックなども双方向で行います。授業中に使用した動画を自宅で確認することもできます。時間外の練習や質問に対しては、実習記録や時間外でも受け付けます。					
到達目標	知識・理解	診療室で使用される歯科用ユニットの構造を記述できる 滅菌・消毒について記述できる 清潔・不潔について説明できる 共同作業の概念、バキューム操作の注意点を記述できる 生体への配慮や言葉がけを具体的に記述できる				
	思考・判断・表現	相互実習でバキューム操作をする際に患者への配慮ができる 相互実習における術者のバキューム操作について改善点を指摘できる				
	技能	清潔・不潔操作等の感染予防対策が実施できる 相互実習において共同動作のポジショニング、バキューム操作が実施できる 相互実習において生体への配慮ができる				
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結び付けた積極的学修態度で取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる				
授業内容	歯科衛生士として歯科診療の補助・介助を行うにあたり、診療が安全に行われるための環境整備や、器械・器具のメンテナンスについて学びます。また、現在の歯科医療において、共同作業は診療を効率的に行うために必要不可欠なものです。この授業では、共同作業について学生同士が相互に患者・補助者・術者を体験することによって、それぞれの立場を理解するとともに、共同作業に必要な基本的知識の理解や医療事故・感染対策についても考えた気にならざる診療業務の知識と技術を修得します。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験(バキューム操作)	-	5	30	-	35
	レポート・相互チェック表	10	5	-	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	10	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験では第12回目までで学修した知識について評価します。 実技試験はバキューム操作、生体への配慮、清潔・不潔操作について評価します。 レポートは、相互実習の術式・使用器具・考察について簡略にまとめられているか 専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られているかについて評価します。 。実習態度は学習への取り組み、課題提出、身だしなみ、忘れ物などの状況の評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合は、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
ICT活用	授業内で使用した動画等を、授業終了後もGoogle classroomから確認することができます。					
課題に対するフィードバック	課題・レポートは授業内で返却し授業の中で活用しフィードバックします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』医歯薬出版(3,520円)ISBN:978-4-263-42850-4					
参考書・教材	『歯科医療における 院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト』医歯薬出版(4,180円)ISBN:978-4-263-44243-2					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科用ユニットの構造と各部名称 歯科用器具について・衛生材料について [課題(復習)] 歯科ユニットの各部名称を正確に覚える。(1h)					
2	手指消毒、マスク・グローブ・ガウンの着用方法 [課題(復習)] 手指消毒の方法、タイミング、消毒剤についてまとめる。(1h)					
3	器材別滅菌・消毒法 清潔・不潔について [課題(復習)] 滅菌器の特徴・使用上の注意点をまとめる。清潔・不潔の区別がつき実践できるようにする。(1h)					
4	バキューム操作について バキューム操作練習(マネキン実習) [課題(復習)] 共同動作の概念についてまとめる。バキュームの挿入目的・挿入禁忌部位・患者への配慮などをまとめ模型上でできるように練習する。(1h)					
5	バキューム操作練習(マネキン実習) バキューム操作ロールプレイ(口腔内観察・触診・貼薬・洗浄) [課題(復習)] バキューム操作方法・相互実習の流れをまとめて生体で実施できるように練習する。(1h)					
6	バキューム操作 相互実習(口腔内観察・触診・貼約・洗浄・最後白歯での吸引) [課題(復習)] 相互実習の振り返りをする。(1h)					
7	バキューム操作 相互実習(部位ごとの確認) [課題(復習)] 操作部位別バキューム操作をまとめ、相互実習の振り返りをする。(1h)					
8	バキューム操作 相互実習(口腔内観察・触診・貼約・洗浄・部位別バキューム操作) [課題(復習)] 部位別バキューム操作をまとめる。(1h)					
9	相互実習 実技試験にむけて(バキューム操作方法確認) [課題(復習)] 相互実習の振り返りをする。(1h)					
10	実技チェック(これまでの実習内容を、試験形式で確認をする。)					

内容	
実施回	授業内容・目標
11	歯科用ユニットのメンテナンス [課題(復習)]ユニット各部位のメンテナンス方法をまとめる。(1h)
12	まとめ(基本技術の総復習をする) 実技試験フィードバック
13	筆記試験・実技再チェック
時間外での学修	相互実習を円滑に行うために、予習・復習をしっかりと行って授業にのぞんでください。実習時間内で技術力が十分でない時は自主的に練習をしてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：10時間】
受講学生へのメッセージ	相互実習はグループで行うので欠席すると相手に迷惑をかけます。欠席をしないように健康管理を十分行ってください。 オフィスパワーは研究室で木曜5限です。

【4H5S403】診療補助基礎		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	藤塚 未子・川畠 智子・大林 泰二						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	藤塚 未子 歯科医院他 歯科衛生士 5年 大林 泰二 大学病院他勤務 歯科医師 15年 川畠 智子 歯科医院他 歯科衛生士 6年						
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明し、事前に撮影した動画や、デモンストレーションの後、自ら知識・技術を修得します。また、相互実習前後の課題提出とそのフィードバックなども双方向で行います。授業中に使用した動画を自宅で確認することもできます。時間外の練習や質問に対しては、実習記録や時間外でも受け付けます。						
到達目標	知識・理解	印象材の種類・分類・用途・特徴について記述できる 印象材練和・印象採得の手順を説明できる 模型材料としての石膏の種類・用途・取り扱いについて記述できる 各種材料を使用目的を記述できる 生体への配慮や言葉がけを具体的に記述できる 相互実習の術式・使用器具を具体的に記述できる					
	思考・判断・表現	相互実習の内容を示すことができる。					
	技能	印象材練和が正しく実施できる 印象採得が正しく安全に実施できる 相互実習において生体への配慮ができる					
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学修態度で取り組むことができる。 医療人として自己管理や受講態度への配慮ができる					
授業内容	歯科診療では、数多くの歯科材料を取り扱います。その材料を適切な状態に保ち治療に役立つようにするためには、材料の性質を理解し、材料の取り扱いに必要な器機・器具の正確な知識と熟練した手技・生体への配慮が必要です。学生相互に歯型を採り模型を作成・レントゲン写真と見比べ観察し、口腔内への理解を深めることで、歯科衛生士の他の業務でも活用できる知識を得る。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		40	-	-	-	40
	実技試験(練和・印象採得)		-	-	45	-	45
	レポート・相互チェック表		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	5	45	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験/筆記試験それぞれ6割の取得が必要です。 筆記試験では第11回までで学修した知識について評価します。 実技試験は印象材練和・印象採得、生体への配慮について評価します。 レポートは、相互実習の術式・使用器具・考察について簡略にまとめられているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られているかについて評価します。 受講態度は学習への取り組み、課題提出、身だしなみ、忘れ物などの状況の評価します。 全授業の3分の1以上欠席の場合は、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	授業内で使用した動画等を、授業終了後もGoogle classroomから確認することができます。						
課題に対するフィードバック	課題・レポートは授業内で返却し授業内の中で活用しフィードバックします。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,850円)ISBN:978-4-263-42851-1						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	アルジネート印象材について アルジネート練和 盛り上げ 印象採得(マネキン) [課題(復習)]アルジネート印象材の特徴をまとめる。アルジネート印象材の練和練習をする。(2h)						
2	石膏について 印象採得上下(マネキン) 石膏注入 [課題(復習)]石膏の取り扱いについてまとめる。印象採得時の生体への配慮を復習する。上下印象採得の練習をする。(2h)						
3	AG 相互実習 上下印象採得・石膏注入 BG 寒天印象材(マネキン) [課題(復習)]寒天印象材についてまとめる。相互実習での術式・実習を振り返る。(2h)						
4	AG 寒天印象材(マネキン) BG 相互実習 上下印象採得・石膏注入 [課題(復習)]寒天印象材についてまとめる。相互実習での術式・実習を振り返る。(2h)						
5	AG 相互実習 上下印象採得・咬合採得・石膏注入 BG シリコーン印象材(マネキン) [課題(復習)]シリコーン印象材についてまとめる。相互実習での術式・実習を振り返る。(2h)						
6	AG シリコーン印象材(マネキン) BG 相互実習 上下印象採得・咬合採得・石膏注入 [課題(復習)]シリコーン印象材についてまとめる。相互実習での術式・実習を振り返る。(2h)						
7	レントゲン撮影について レントゲン撮影への患者誘導 [課題(復習)]レントゲン撮影についてまとめる。レントゲン撮影時の患者誘導・説明についてまとめる。(2h)						
8	パノラマ撮影 [課題(復習)]パノラマ撮影法についてまとめる。(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	トリミング [課題(復習)] モデルトリマーの取り扱いについてまとめる。(2h)
10	パノラマ・スタディモデル分析 [課題(復習)] 自分の口腔内の状態についてまとめる。(2h)
11	まとめ(基本技術の総復習) 実技テスト練習
12	実技テスト
13	筆記試験
時間外での学修	相互実習を円滑に行うために、予習・復習をしっかりと行って授業にのぞんでください。実習時間内で技術力が十分でない時は自主的に練習を行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：10時間】
受講学生へのメッセージ	相互実習はグループで行うので欠席すると相手に迷惑をかけます。欠席をしないように健康管理を十分行ってください。 オフィスアワーは研究室で木曜5限です。